

区分	2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	備考
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
全 学 共 通 教 育 科 目	「人間たれ」	「人間たれ」Ⅰ	②	○									鬼頭 浩文 他	1	
	情報倫理	技術者研究者倫理	②	○									前川 督雄 野呂 達哉	23	
	情報と職業	地域社会とメディア情報	2		○								黒田 淳哉 柳瀬 元志	25	
	四日市学	四日市学	2	○									兼 岡 良浩 他	27	
	人権論	「人間たれ」Ⅱ	2		○								兼 小林 慶太郎 他	30	
	地域社会と環境	地域社会と環境	2	○									野呂 達哉	31	
	地域防災		2	○									鬼頭 浩文	32	オンデマンド授業
	地域連携特別講義a	全学共通特別講義a	2		▲								兼 倉田 英司	33	
	社会福祉概論	社会福祉概論	2		○								兼 松本 彩月	40	
	地学概論	地学概論	2	○									非 森 康則	55	オンデマンド授業
	生物と進化	野生動物学	2		○								野呂 達哉	57	
	キャリア基礎Ⅰ	キャリア基礎b	②		○								三田 泰雅	60	
	キャリア基礎Ⅱ	キャリア基礎c	②			○							小林 慶太郎 小西 零絵	61	
	インターンシップ	インターンシップa	2			▲							岡 良浩	66	
	ビジネスマナー	ビジネスマナー	2		○								兼 鬼頭 浩文		
	ビジネスコミュニケーション	ビジネスコミュニケーション	2			○							非 石田 京子	77	
	ビジネスマネジメント	経営分析論	2						○				非 石田 京子	78	
	マーケティング演習	マーケティング実践論	2						○				兼 二村 建也	80	
	おもてなし特別講義a	経営ケーススタディ	2				○						兼 川崎 綾子	81	
	メディアツールb	グラフィックツール2	2		○								兼 岡 良浩	82	
	メディアツールc	ビデオツール	2			○							兼 川崎 綾子		
	メディアツールd	電子音楽ツール	2				○						非 西尾 秀樹	93	
	インターネット論	ITリテラシー	2			○							非 緒織 智英	84	
専 門 教 育 科 目	環境情報学概論Ⅰ	環境情報学概論Ⅰ	②	○									柳澤 翔士	95	
	環境情報学概論Ⅱ	環境情報学概論Ⅱ	②		○								柳澤 翔士	98	
	四日市公害論	都市環境学	②				集						黒田 淳哉 他	108	
	環境保全学	環境保全学	2				○						黒田 淳哉 他	109	
	環境エネルギー論	環境エネルギー論	2					集					非 森 康則	110	
	資源循環論	資源循環論	2						○				野呂 達哉	161	
	地理情報システム論	環境データ処理	2						○				非 森 康則	165	オンデマンド授業
	食品微生物学	環境微生物学	2			○							野呂 達哉	167	
	食品衛生学	生活環境学	2				○						非 苅田 修一	182	
	コンピュータ音楽論	先進メディア技術	2						○				非 苅田 修一	183	
	感性と創造	感性と創造	2		○								柳澤 翔士	193	
	表現と思想	作品制作	2			○							黒田 淳哉	195	
	映像概論	映像概論	2			○							柳瀬 元志	196	
	照明概論	音響照明技術	2				集						柳瀬 元志	197	
													足立 明信	198	
													黒田 淳哉		
	音響概論	音響照明概論	2				○						足立 明信	199	オンデマンド授業
	プログラミング	プログラミング実習応用1	2			○							黒田 淳哉	201	
	システム管理論	プログラミング実習応用2	2				○						足立 明信	203	

授業科目名	「人間たれ」		科目コード	171001	授業コード	425101
担当教員	鬼頭 浩文、足立 明信、樋口 晶子、黒田 淳哉、大八木 麻希、柳瀬 元志		科目ナンバリング	GEF1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。					
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。					
到達目標	本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。					
授業計画	第1講 4/11 ガイダンス：建学の精神「人間たれ」と能登半島地震と学友会と 第2講 4/18 災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～ 第3講 4/25 災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～ 第4講 5/9 災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～ 第5講 5/16 被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所運営を経験して（齋藤） 第6講 5/23 被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が被災して（鈴木&北村） 第7講 5/30 被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難所をどう見たか（雁部） 第8・9講 フィールドワーク：四日市公害と環境未来館 第10講 6/20 教員が語る「人間たれ」①（足立） 第11講 6/27 教員が語る「人間たれ」②（大八木） 第12講 7/4 教員が語る「人間たれ」③（黒田） 第13講 7/11 教員が語る「人間たれ」④（樋口） 第14講 7/18 教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬） 第15講 7/25 教員が語る「人間たれ」⑥（青木） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。					
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（1日30分以上）。					
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。					
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノート写真撮影しMoodleに提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す					
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成					
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。					
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。					

授業科目名	情報倫理		科目コード	171202	授業コード	423105
担当教員	前川 督雄、野呂 達哉		科目ナンバリング	GEI1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	環境情報学部で学ぶ皆さんは、環境・情報・メディアいずれかの領域で専門家（プロフェッショナル）となるための素養が求められます。一般人やユーザではなく、専門家として、どのような立ち位置で、どのようにものごとを見て、どのように振る舞うことが求められるか、多方面の観点から知り、考えてもらう講義です。					
到達目標	専門家・プロフェッショナルの立場からの倫理・責任を、できるだけ広く俯瞰して、当事者となっていく自覚をもつ。					
授業計画	第1講 ガイダンス／専門家とは 第2講 専門家として 個人情報への扱い 第3講 専門家として 著作権の扱い 第4講 専門家として AIの扱い 第5講 研究者として 科学体系の成り立ち／研究するとは／改竄・捏造が及ぼす影響 第6講 研究者として 実験における倫理 第7講 研究者として 社会に対する責任／共同や連携、学際研究を行う際の倫理 第8講 技術者として 安全確保と保守／社会に対する責任 第9講 技術者として 業界標準の意義／知的財産／企業秘密と守秘義務 第10講 環境技術者として 生態系のなかの人間活動 第11講 環境技術者として フィールドワークにおける倫理／地域や海外での活動倫理 第12講 メディア情報技術者として 表現するとは／表現における倫理 第13講 メディア情報技術者として 情報セキュリティと倫理 第14講 メディア情報技術者として オープンソースという貢献 第15講 まとめ 組織の一員であること／ダイバーシティへの配慮／ハラスメントの防止 （内容・順序を変更することがあります）					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。 講義中に、参考映像を視聴することがあります。					
事前・事後学習	次回の授業タイトルから内容を推測して、ネット検索などで予習を行って下さい（60分）。毎回の授業の後に復習するとともに、不明点を調べ、自分の思考・行動を振り返って考えを深めて下さい（120分）。					
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価します。					
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。					
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。					
実務経験のある教員	担当教員は専門領域のプロフェッショナルとして実務に従事してきている。					
担当者から一言	新しく設立した科目です。試行錯誤しながら進めます。					

授業科目名	情報と職業		科目コード	171204	授業コード	423805
担当教員	黒田 淳哉、柳瀬 元志		科目ナンバリング	GEI1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	講義の前半は自らが地域イベントにスタッフとして参加し、地域を体験的に理解することから始めます。後半は、メディアや情報関連で地域をフィールドに活躍、発信を行っている方々の声を聴きながら、地域におけるメディアや情報関連の職業についてを理解を深め、自らが地域で活躍する為の発見に繋げてもらう講義です。					
到達目標	・地域で活躍しているメディア情報関連の職業を知る。 ・この学びを、地域に関連した研究活動や将来のビジョンへと繋げる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 地域と繋がる体験1（オンデマンド予定） 第3講 地域と繋がる体験2（オンデマンド予定） 第4講 地域と繋がる体験3（10/16木5限目予定） <イベント参加10/18(土)&10/19(日)予定> ※イベントスタッフとして2日間参加することが、第5～7講の講義になります。 第5講 地域と繋がる体験4 第6講 地域と繋がる体験5 第7講 地域と繋がる体験6 <ゲストを招いた講義> 第8講 地域のイベント 第9講 イベント業界と仕事について 第10講 放送業界と仕事について 第11講 地域の放送局 第12講 地域のメディア 第13講 地域のIT 1 第14講 地域のIT 2 第15講 地域のICT					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	定期試験は行いません。受講態度と講義で提出するレポートで評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業内もしくはMoodleでミニツッペーパーやレポートを提出。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツッペーパーへの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。					
アクティブラーニング	実習、ディスカッション、グループワーク					
実務経験のある教員	関連領域で実務経験を持つ教員がこの講義の進行を務めます。さらに、地域のメディア情報領域で活躍されている講師をゲストに招いて講義を進めます。					
担当者から一言	講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。					

授業科目名	四日市学		科目コード	171301	授業コード	425201
担当教員	岡 良浩、青木 陽子、倉田 英司、鬼頭 浩文、小林 慶太郎、永井 博		科目ナンバリング	GEC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。					
授業のねらい	この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境など多面的に四日市について理解する機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただきたいと思います。					
到達目標	講義は13回にわたる様々なテーマの座学とフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。 1. 「四日市」を多面的に理解すること 2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること 3. 地域の課題を発見して考察を行うこと 4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること					
授業計画	第1講(4/11) ガイダンス+フィールドワークの説明(岡) 第2講(4/18) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭[司会]；四日市公害と環境未来館) 第3講(4/25) 「四日市の産業」(岡[司会]；四日市市商工農水部) 第4講(5/9) 「四日市の文学者たち」(永井[司会・講義]) 第5講(5/16) 「四日市の歴史」(永井[司会]；四日市市博物館学芸員) 第6講(5/23) 「四日市の多文化共生」(青木[司会]；四日市市多文化共生推進室) 第7講(5/30) 「四日市の食」(小林[司会・講義]) 第8講(6/6) 「四日市の都市計画」(倉田[司会]；四日市市都市整備部) 第9講(6/13) 「四日市の文化財」(鬼頭[司会]；四日市市文化課) 第10講(6/20) 「四日市市のシティプロモーション」(岡[司会]；四日市市シティプロモーション部) 第11講(6/27) 「四日市市の危機管理と防災」(鬼頭[司会]；四日市市危機管理統括部) 第12講(7/4) 「四日市市の子育て支援」(松本[司会]；四日市市こども未来部) 第13講(7/11) 「四日市市の行財政」(小林[司会]；四日市市財政経営部) フィールドワーク(第14・15講分) 四日市市博物館等でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。					
テキスト・教材(参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。(Moodleでの配布を予定)					
事前・事後学習	事前学習：講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習(90分程度)事後学習：講義中の課題を行う(90分程度)					
成績評価方法	以下の3つで総合評価します。 講義中の課題(リアクションペーパー)各200字程度(60%) フィールドワークに関するレポート(20%) 学期末試験(20%)					
授業内の課題・提出方法	毎回、課題を設定し小レポートを提出(Moodleを使用予定)					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックを行います。					
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。					
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいます。					
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいと思います。					

授業科目名	人権論		科目コード	171304	授業コード	425501
担当教員	小林 慶太郎、浅井 雅、二村 建也、倉田英司、フェリペ フェハリー、永井 博		科目ナンバリング	GEC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。					
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部 of 全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。					
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。					
授業計画	第1講（9/26）ガイダンス「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林） 第2講（10/3）情報リテラシーと犯罪対策（三重県警サイバー犯罪対策課） 第3講（10/10）日本の財政状況と税金（財務省 津財務事務所） 第4講（10/17）お金をうまく管理しよう①（二村） 第5講（10/24）お金をうまく管理しよう②（二村） 第6講（10/31）お金をうまく管理しよう③（二村） 第7講（11/7）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学2期生 原田さん（津市職員）） 第8講（11/14）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ホック・モビヌルさん） 第9講（11/21）教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（永井） 第10講（11/28）世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林） 第11講（12/5）教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（倉田） 第12講（12/12）外国人研修生の日本での生活紹介および子供の森計画について（オイスカ） 第13講（12/19）教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（浅井） 第14講（1/9）教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（フェハリー） 第15講（1/16）教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（小林） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序・内容は変更になる場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。					
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。					
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60％）と、期末試験（レポート）の成績（40％）により評価する。					
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。					
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。					
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。					
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。					

授業科目名	地域社会と環境		科目コード	171305	授業コード	425307
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	GEC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。					
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。					
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社」など。					
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。					
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。					
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。					
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。					
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。					
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。					

授業科目名	地域防災		科目コード	171306	授業コード	425306
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。					
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 *テキスト・受験料などの実費18,000円が必要です。 (この金額は変更の可能性があります)					
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。					
授業計画	対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド 1 4/11 ガイダンス(対面)／補講1；近年の災害／第15講；地震・津波／第16講；風水害／第11講；復旧・復興 2 4/18 第20講；災ボラ／第14講；事業継続／第6講；ハザードマップ 3 4/25 補講2；耐震／第12講；医療／第18講；避難所 4 各自 普通救命講習（市町の消防本部など） 自分の住む市町か、四日市市で、各自で申し込み受講し、修了証のコピーを提出する 5～7 5/24 防災士養成講座（会場研修）① 8～10 5/25 防災士養成講座（会場研修）② 11 5/24 第1講；地震・津波／第2講；気象災害／第3講；土砂災 12 5/31 第4講；火山／第5講；火災／第7講；情報と予報・警報 13 6/7 第8講；災害情報／第9講；行政／第10講；行政の対策 14 6/14 第13講；ライフライン／補講3；損害保険／第17講；自主防 15 6/21 第19講；多様性／第21講；防災士の役割／補講4；各種訓練 学期末試験：7/4 ★8月3日(日)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。					
テキスト・教材（参考文献）	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥18,000に含まれる。					
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要個所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。					
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。					
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要個所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。					
アクティブラーニング	会場研修において、避難所運営、救命講習、災害ボランティアセンター運営などのアクティブワークを行う。					
実務経験のある教員	防災対策の最前線に立つ外部講師を招聘し、実際の災害対応について学ぶ。					
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。					

授業科目名	地域連携特別講義 a	科目コード	171307	授業コード	426505
担当教員	倉田 英司	科目ナンバリング	GEC1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。				
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。				
授業計画	10月上旬 「ガイドンス」 13：00-14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10-15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20-17：00 グループワーク 10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00-15：30 展示見学・講義 15：40-17：00 グループワーク 10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00-12：00 施設見学・体験 12：00-13：00 昼食・移動 13：00-14：00 農を活かした観光開発 14：10-16：10 グループワーク 11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00-16：10 フィールドワーク 12月上旬 「食と観光を考える」 13：00-17：00 グループワーク 12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00-16：00 成果発表会 16：00-17：00 講評・まとめ ※ 受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料等を配布する場合があります。				
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。				
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。				
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。				
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、グループワーク、ディベート、フィールドワーク				
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。				
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。				

授業科目名	社会福祉概論			科目コード	171407	授業コード	421605
担当教員	松本 彩月			科目ナンバリング	GLAS1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史の変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアリズムとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。 ＜参考文献＞ 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習180分以上）						
成績評価方法	＜評価＞ 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞ コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体に地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方を知ることが今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	地学概論		科目コード	171606	授業コード	421101
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	GLAN1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある事例を交えながら学んでいきます。					
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。					
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物1 第4講 岩石と鉱物2 第5講 化石 第6講 地質年代1 第7講 地質年代2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 火山 第11講 地震 第12講 自然災害1 第13講 自然災害2 第14講 温泉1 第15講 温泉2					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。各講義の小テストや期末課題は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。					
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点×15回＝75点 （2）期末課題 25点 計100点					
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行い、Moodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。詳細については、MoodleやUNIPAを使って、アナウンスします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleで提出された小テストには質問欄を設けています。適宜、次回講義時にその回答やフィードバックを行います。					
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見の中で、着眼点が良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図ります。					
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。					
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を薦めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、自律的に受講しないと単位取得まで到達しません。みなさんの受講に対する自律的な姿勢に期待しています。					

授業科目名	生物と進化			科目コード	171608	授業コード	423505
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	GLAN1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	野生動物は現在絶滅の危機にあります。一方、野生動物と人間との間に生じる軋轢は年々増加する一方です。これらの対策に携わる人材に必要な野生動物に関する基礎的知識についての理解を深めます。						
到達目標	野生動物に関する基礎的知識について拾得しすることを目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 野生動物の系統と分類 第3講 日本の野生動物の特徴と生物地理 1 第4講 日本の野生動物の特徴と生物地理 2 第5講 野生動物の個体群と生息場所 第6講 野生動物の行動と社会 第7講 野生動物の繁殖生態 第8講 野生動物をめぐる現状と課題 第9講 飼育下の野生動物の活用 第10講 野生動物の死体の活用 第11講 野生動物の保護管理 第12講 生息場所の保全管理 第13講 種と個体群の保護管理 第14講 野生動物の保護管理に関係のある法律・条約 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「野生動物学概論（田名部雄一）朝倉書店」、「現代の哺乳類学（朝日稔）朝倉書店」、「林業と野生鳥獣との共存に向けて（石井信夫・由井正敏）日本林業調査会」、「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	野生動物調査や保護の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	キャリア基礎 I		科目コード	171701	授業コード	421701
担当教員	三田 泰雅、二村 建也、小西 琴絵、松本 彩月、岡 良浩、鶴田 利恵		科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。					
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる					
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①キャリアとは 3 労働②キャリアを考えるには 4 労働③現代社会の職業 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③世界の中の日本の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて					
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。					
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）					
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。					
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。					
アクティブラーニング	小レポート					
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。					
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。					

授業科目名	キャリア基礎Ⅱ		科目コード	171702	授業コード	423301
担当教員	小林 慶太郎、小西 琴絵		科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	この科目では、前の学期に引き続き、卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えていきます。自分の「就きたい職業」や「働きたい業界」をどのように見つけ、そして、就職活動をどのように進めていったら良いのか、実践も交えながら探っていきます。現在の日本の就職事情等をしっかり把握し、自ら主体的に行動できるようになることをねらいとしていますので、進学等を予定しているなどで卒業後すぐに就職をしないつもりの方の学生にとっても、有益な授業になるはずです。					
到達目標	以下の3つの到達目標があります 1. なぜ、どのような仕事に就きたいのかを、自らの言葉で説明できるようになる（志望理由） 2. 自らがどんな人間であるのかを長所・短所も含めて客観視して説明できるようになる（自己PR） 3. 自らの大学生活を振り返り、どのようなことに取り組み、どのような力を育んできたのかを説明できるようになる（ガクチカ）					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 就職活動のすすめ方 第3講 インターンシップ・オープンカンパニーのすすめ 第4講 自己分析 第5講 エントリーシート・履歴書対策 第6講 業界・企業研究 第7講 面接対策 第8講 グループディスカッション対策 第9講 筆記試験対策 第10講 就職活動マナー 第11講 業界・企業セミナー① 第12講 業界・企業セミナー② 第13講 業界・企業セミナー③ 第14講 働く者の権利 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	適宜、資料などを配布する予定です。					
事前・事後学習	新聞やニュース、特に自らの志望する業界などに関するものに、しっかり目を通すこと（1日20分以上）。しっかり復習をし、夏のオープンカンパニーや就職活動の開始に備えること。					
成績評価方法	日頃の課題等への取組状況：60% 期末試験：40%					
授業内の課題・提出方法	ゲストスピーカーによって異なるため、授業中に指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週以降の授業中にコメントする。					
アクティブラーニング	実際に書類を書く練習をしたり、グループワークを行ったりする予定である。					
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、企業等において、就職活動等に関する情報を多く収集し、指導実績も豊富な方々です。					
担当者から一言	大学生活も振り返り点を過ぎました。自身の将来、卒業後の進路を見据えて、真剣に取り組んでください。					

授業科目名	インターンシップ		科目コード	171804	授業コード	426104
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩		科目ナンバリング	GESCI004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。					
授業のねらい	大学の長期休暇などで、5社以上のオープンカンパニー（1社3時間以上）に参加する。これにより、働くことについて深く理解することが本講義のねらいである。安易な受講は避けてほしいが、社会人になる準備の科目ととらえ、積極的に履修してほしい。					
到達目標	仕事・業界について知り、働くことへの理解を深める。					
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 5月（10月）説明会/申込 6月（11月）事前学習 7月（12月）事前研修 8月～9月（2月～3月） オープン・カンパニー 10月（3月）事後学習 11月（3月）単位認定 *（ ）は春季スケジュール					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。					
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。					
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。					
アクティブラーニング	オープンカンパニーは、会社の説明や実際に働く人たちの日常を知る機会であるが、ときにはディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。					
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。					
担当者から一言	気軽にチャレンジしてほしいが、安易な考えで受講することは、しないでほしい。なお、オープンカンパニーは平日昼に実施されることが多い。当然、アルバイトやクラブ活動でドタキャンすることは認められない。					

授業科目名	ビジネスマナー			科目コード	172301	授業コード	425601
担当教員	石田 京子			科目ナンバリング	GSHM1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの初級者として、様々な理論や技術の基礎を学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を２００６年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の３つの能力（１２の能力要素）です。 主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人には、この社会人基礎能力が求められます。講義はとりわけビジネスマナーやビジネススキルを中心に、実社会で必要な相手目線（顧客）を意識した自己表現力を磨き、身						
到達目標	１．社会人としてのマナーの基本を学び習得することで、社会生活の様々なシーンで適切な基本的実践行動ができるようになることです。 ２．人間関係の土台であるコミュニケーションスキルを基本的に学び、そのエビデンスである心理学を理解し考察することで、相手目線に立ち、その場と関わりに応じた適切な自己表現ができるようになることです。						
授業計画	第１講 ガイダンス 挨拶の基本 第２講 マナーとコミュニケーション概論 第３講 一般的なマナー①表情・声・身体表現 第４講 一般的なマナー②敬語 第５講 ビジネスマナー①職場のルール・報連相・電話応対 第６講 ビジネスマナー②受付・案内・席次・名刺交換 第７講 ビジネスマナー③ビジネス文書・ビジネスメール 第８講 第一印象力 第９講 話す力 第１０講 聴く力 第１１講 考える力（主体的論理的思考） 第１２講 クレーム対応・ハラスメント基礎・アンガーマネジメント基礎 第１３講 プレゼンテーション原稿づくり 第１４講 プレゼンテーション個人発表 第１５講 総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。						
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント他を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。						
成績評価方法	定期テスト５０％、小テスト２５％、出席時の積極的態度と発言２５％。						
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。 小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。 丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確認めたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。						
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修に携わる。						
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。周りの人々と心から繋がりが合い、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築しましょう。意欲的で実行力のある学生の受講を望みます。						

授業科目名	ビジネスコミュニケーション			科目コード	172304	授業コード	422402
担当教員	石田 京子			科目ナンバリング	GSHM1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの上級者をめざして様々な技術を実践的に学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を２００６年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の３つの能力（１２の能力要素）です。主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人にはこの社会人基礎能力が求められます。講義は笑顔とホスピタリティ溢れる接客技術や、説明力・説得力・プレゼンテーション力などを含む会話術を中心にを行います。こ						
到達目標	①ビジネス社会において、人間関係の土台であるコミュニケーションスキルの理論と実践を応用的に学び習得することで、様々なビジネスシーンで相手とその関係性において適切な自己表現行動ができるようになることです。 ②接客技術や会話術を、エビデンスと実践練習で学び習得することで、主体的に考え、判断し、有言実行し、地域社会に貢献できるスキルをもつようになることです。						
授業計画	第１講 ガイダンス 仕事の意義・挨拶の基本 第２講 コミュニケーション概論・ホスピタリティ理論 第３講 パフォーマンス心理学 場と関わりの自己表現 第４講 第一印象力・電話応対 第５講 接客力・名刺交換 第６講 ビジネス文書・ビジネスメール 第７講 コンプライアンス・リスク管理・ハラスメント 第８講 心理学 セルフコーチング 第９講 心理学 交流分析 第10講 心理学 アサーティブコミュニケーション 第11講 合意形成（コンセンサス） 第12講 論理的思考力・説明力・説得力 第13講 プレゼンテーション１ 第14講 プレゼンテーション２ 第15講 総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。						
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント他を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。						
成績評価方法	定期テスト５０％、小テスト２５％、出席時の積極的態度と発言２５％。						
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。 小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。 丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確認めたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。						
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修。就活の面接指導。						
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。心から繋がりがあい、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築するために、自身のスキルや人間力を磨きましょう。周りと共に生き、なりたいたい自分になるために切磋琢磨する学生を望みます。						

授業科目名	ビジネスマネジメント		科目コード	172307	授業コード	425202
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	GSHM1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	この「経営分析論」では企業の決算書（財務諸表）などを使って分析することを学びます。第4講までで財務諸表のなかでも特に重要な貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の要点を理解しましょう。次に経営（財務）分析の手法や指標の意味・使い方を観点ごとに学びます。第10講以降は、実存する企業の公開されている財務諸表を使って分析します。ライバルである企業どうしの比較などで経営分析についての理解を深め定着させてください。					
到達目標	(1) 財務諸表の要点を理解する。 (2) 経営分析の手法を財務諸表の各項目の意味と合わせて理解する。 (3) 企業の財務諸表だけでなく、ビジネスモデルや競争戦略なども考慮して経営分析ができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 貸借対照表 第3講 損益計算書 第4講 キャッシュ・フロー計算書 第5講 経営分析のための準備 第6講 安全性の分析 第7講 収益性の分析 第8講 効率性の分析 第9講 成長性の分析 第10講 ケース (1) 連結決算 第11講 ケース (2) セグメント情報とビジネスモデル 第12講 ケース (3) 小売・飲食・サービス 第13講 ケース (4) IT 第14講 ケース (5) メーカー 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献：桜井久勝「財務諸表分析 第9版」中央経済社（2024年）、定価：3740円（税込）					
事前・事後学習	「経営分析論」の履修には「会計学総論」「財務諸表論」のいずれかを先行して履修していることが望ましいですが、必須とはしません。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。そのうえで、上場企業の財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください。また日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（180分）。					
成績評価方法	(1) 小テスト・平常点（受講態度など）：30% (2) 課題（2回）：30%（15%×2） (3) 定期試験：40%					
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第8講・第10講予定）実施します。課題はMoodleまたはメールで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと課題については全体の講評を授業で行います。					
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務・ビジネスモデル・競争戦略などの比較するレポートを作ってもらいます。					
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。					
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。					

授業科目名	マーケティング演習		科目コード	172308	授業コード	422405
担当教員	川崎 綾子		科目ナンバリング	GSHM1008		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	本講義では、成功企業の事例を理解した上で、企業のマーケティング戦略について考察する。考察を通じて、実践的なマーケティングの理解を深めることを、本講義のねらいとする。					
到達目標	成功企業の事例について学んだ上で、その企業を成功に導いた根本的な理由について考察する。その上で、他のビジネスへの応用可能性について検討する。既存のマーケティング戦略の改善案や新たな戦略案を提示できる。					
授業計画	第1回 4/8 ガイダンス 第2回 4/15 マーケティングの基本的な考え方 第3回 4/22 マーケティングの分析軸 第4回 4/29 事例研究① 第5回 5/13 事例研究② 第6回 5/20 中間レポートの発表①（予定） 第7回 5/27 中間レポートの発表②（予定） 第8回 6/3 中間レポートの発表③（予定） 第9回 6/10 事例研究③ 第10回 6/17 事例研究④ 第11回 6/24 事例研究⑤ 第12回 7/1 事例研究⑥ 第13回 7/8 最終レポートの作成と発表① 第14回 7/15 最終レポートの作成と発表② 第15回 7/22 最終レポートの作成と発表③ ※外部講師によるご講義の回を予定しています。 （第1回のガイダンス時に詳細を説明予定です） ただし川崎による講義に代える場合があります					
テキスト・教材（参考文献）	教科書（テキスト） 大崎孝徳（2016）『すごい差別化戦略』日本実業出版社 ISBN-13：978-4534053480					
事前・事後学習	マーケティングや企業経営に関するニュースに目を通すことを心がけること（30分程度、週2日以上）。講義内容を復習し、既存のマーケティング戦略の長所や短所について考える時間をもつことが望ましい（1時間程度）。					
成績評価方法	中間レポートと発表 50% 最終レポート（レポート試験）と発表 50% ※レポートの内容だけでなく、発表態度や発表を聴く態度も含む。 受講者数が多く、発表の時間が取れない場合は レポートの内容と聴講態度で評価する					
授業内の課題・提出方法	①毎回の出席確認の質問への解答は、講義中にmoodleから提出すること ②中間レポートと最終レポートも、moodleから提出してもらう予定。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義中にコメントします。 履修者数が多く、全員の発表時間が取れない場合は 優秀な中間レポートを、前のスクリーンで紹介する予定です。					
アクティブラーニング	出席確認の課題についても、優秀な解答は講義中に紹介する場合がある。					
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして企業のかたにご講義いただく予定です					
担当者から一言	実践的なマーケティングを学ぶ機会になれば幸いです。自ら進んで学ぶ姿勢をもって取り組める人は、是非受講してください。 ※2回以上、私語の注意を受けた人には原則、単位を認めません。 また許可された時間以外にスマホを使用した場合、 2回目の注意を受けた時点でその日は原則、欠席扱いとなります。					

授業科目名	おもてなし特別講義 a		科目コード	172309	授業コード	423605
担当教員	岡 良浩、川崎 綾子		科目ナンバリング	GSHM1009		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	本講義は、企業経営の成功事例を、総合的に理解することを目的とします。 企業経営の成功は、個々の技術要素というより、マネジメント力や企画力などの総合力が勝っているからだと思われます。このような総合力を見ることがこの講義のねらいです。 具体的には「三重のサステナブル経営アワード」をとりあげ、受賞企業をお招きし、ケーススタディを学んでいただきます。またこの制度を含めた中小企業振興施策を実施されている三重県庁の方や、教員からみた経営のケーススタディについてもお話する予定です。 全体として成功の要因について、共通する点・他企業・他業態への応用の可能性など普遍化できるかを考察していきたいと思います。					
到達目標	・ 企業経営の成功事例を理解する。 ・ 成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。					
授業計画	第1回 9/24 ガイダンス 第2回 10/1 外部講師による講義（三重県） 第3回 10/8外部講師（企業経営者）による講義① 第4回 10/15外部講師（企業経営者）による講義② 第5回 10/22中間レポート1 第6回 10/29 外部講師（企業経営者）による講義③ 第7回 11/5外部講師（企業経営者）による講義④ 第8回 11/12外部講師（企業経営者）による講義⑤ 第9回 11/19 中間レポート2 第10回 11/26外部講師（企業経営者）による講義⑥ 第11回 12/3 外部講師（企業経営者）による講義⑦ 第12回 12/10 外部講師（企業経営者）による講義⑧ 第13回 12/17中間レポート3 第14回 1/7 まとめ1 第15回 1/14まとめ2 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、適宜、講義中にお知らせします。					
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。					
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。					
成績評価方法	講義への参加態度（含む質疑） 40% 中間レポート 30% 定期試験（レポート試験） 30%					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業の感想を簡単に提出いただきます。 授業中に中間レポートを作成します。 （いずれもMoodleを利用予定）					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、Moodle内でコメントをつけてフィードバックします。					
アクティブラーニング	講義中に、質疑やグループディスカッション等が求められることがあります。積極的に参加することが求められます。					
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして三重県庁や企業の方々を招へいします。					
担当者から一言	この講義は公開授業とする予定です。一般の方と一緒に受講していただきます。履修者は、社会人としてのマナーを守って受講してください。					

授業科目名	メディアツールb		科目コード	172502	授業コード	425605
担当教員	西尾 秀樹		科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。					
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。					
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説）・解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 3.色調整・サイズ調整 4.画像修正（削除ツール・生成塗りつぶし・スタンプツール など） 5.選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など） 7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8.ペイント・色変換 9.文字入力・加工／フィルター・その他ツール 10.デザインの実践1（バナーデザインなど） 11.デザインの実践2（illustratorとの連動） 12.デザインの実践3（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会					
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。					
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 「これ面白い画像だな」とか「どうやって作ったんだろう」という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。					
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%					
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。					
アクティブラーニング	実習を行います。					
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。					
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	メディアツールc		科目コード	172503	授業コード	424101
担当教員	瀬瀬 智英		科目ナンバリング	GSMD1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	この授業は、Adobe Premiere Proを使用し、動画編集の基本技術を習得することを目指します。初心者や基礎から学び直したい方を対象に、編集ソフトの操作方法や映像編集の手法を学びながら、映像制作の基礎力を身につけます。					
到達目標	・ Adobe Premiere Proの基本的な操作を習得する。 ・ 動画編集に必要な基本的技術や手法を理解する。 ・ タイムラインの編集やエフェクトの活用など、編集ソフトの機能を適切に活用できる。					
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：初期設定・ワークスペースの理解・基本操作 第3回：素材の取り込みと整理 第4回：タイムラインと基本編集操作 第5回：映像の接続とトランジションの適用 第6回：簡易なアニメーション・キーフレーム操作 第7回：テロップ（字幕・タイトル）の挿入 第8回：頻度の高いエフェクトの利用① 第9回：頻度の高いエフェクトの利用② 第10回：オーディオ素材の取り扱いと編集基礎 第11回：オーディオ素材のエフェクト 第12回：色調整とカラーグレーディング 第13回：書き出しとレンダリング 第14回：全体のワークフロー理解と実践演習 第15回：実践演習内容のおさらい					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布します。					
事前・事後学習	予習：課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分） 復習：配布資料や講義ノートを見直すなど復習しておくこと（90分）					
成績評価方法	・ 講義内で実施する数回の習熟度テスト（70%） ・ 課題への取り組み姿勢（30%）					
授業内の課題・提出方法	授業内の課題提出は授業内で、提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。					
アクティブラーニング	実習					
実務経験のある教員	映像制作業 代表。現場にて必要とされる基礎的なスキルをわかりやすく指導します。					
担当者から一言	Premiere Proの基礎を楽しくしっかり学び、みなさんが自信を持って映像編集にチャレンジできる環境づくりをサポートします。共に成長し、充実したクリエイティブライフを始めましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	メディアツールd		科目コード	172504	授業コード	422604
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GSMD1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。					
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。					
授業計画	・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習) 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータをつかった音楽制作とは 3.音楽の基礎 4.ループ音源を組み合わせる1※ 5.ループ音源を組み合わせる2※ 6.楽譜を音にする1※ 7.楽譜を音にする2※ 8.エフェクトとは 9.MixDownとは※ 10.生音の加工1※ 11.生音の加工2※ 12.効果音の世界1※ 13.効果音の世界2※ 14.音作品製作1※ 15.音作品製作2※ 定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。					
テキスト・教材（参考文献）	データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。 必要な資料は適時配布します。					
事前・事後学習	実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分) 音楽をしっかりと聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。分析しながら曲を聴きこむ(90分)					
成績評価方法	受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度) 作品提出30% レポート・定期試験40%					
授業内の課題・提出方法	学内サーバーの指定フォルダに提出 授業外では、Moodleやメールを利用。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講評が必要なものは、当日・翌週に講評。 質問などのフィードバックは適時行う。					
アクティブラーニング	Mac実習					
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有					
担当者から一言	音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。 共に音楽を学びましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	インターネット論		科目コード	172509	授業コード	423402
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GSMD1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。					
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。					
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります					
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ￥2300＋税					
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)					
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%					
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有					
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。					

授業科目名	環境情報学概論Ⅰ			科目コード	371001	授業コード	423302
担当教員	黒田 淳哉、片山 清和、足立 明信、廣住 豊一、牧田 直子、野呂 達哉、木藤 裕也、大八木 麻希、柳瀬 元志、柳澤 翔士、古山 歩、池田 幹男、前川 督雄			科目ナンバリング	EFC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	環境情報学部での学びの全体像を概観する講義です。環境科学専攻とメディア情報専攻の多様な授業を交互に配置し、両専攻の学問の特徴を伝えるとともに、自身の専攻を選択する際の指針となるようサポートします。授業はオムニバス形式で多数の教員が担当するため、1年次配当科目を担当していない教員を知る機会としても有意義です。さらに、進路選択や学修機会に関わる情報を提供する場としても活用します。						
到達目標	・環境科学専攻とメディア情報専攻の両専攻の学問・実践の特徴を理解する。 ・環境情報学部の全体像を把握し、学修内容や進路の可能性を具体的にイメージできる。 ・学部内の専門性の多様性を認識し、自身の興味・関心を広げる機会を得る。 ・主体的に学びを進める意識を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス～学部紹介（黒田） 第2講 里山と竹林保全（牧田） 第3講 竹山保全実習（牧田） 第4講 地域農業と環境：地域資源を農業に活かす取り組み（廣住） 第5講 Web技術を使った情報処理（片山） 第6講 水資源と地域の水環境（大八木） 第7講 プログラミング（魔方陣を解法を例として）（池田） 第8講 鯨類学：三重県周辺に生息するイルカ・クジラ類（古山） 第9講 表現の伝統文化とテクノロジー（前川） 第10講 アナログとデジタルでのモノづくり（柳澤） 第11講 北勢地域の野生動物（野呂） 第12講 音響技術体験（足立） 第13講 メディアと私たち（柳瀬） 第14講 AI深層学習：課題を解決する分野横断の技術（木藤） 第15講 環境「政策」とは？それって本当に、エコ？（鬼頭）						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	環境情報学部の概要を知り、大学での専門教育の出発点となる講義・実習です。興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。						
成績評価方法	定期試験をいません。各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとにレポートなどを課し、授業内やMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleや翌週の講義でフィードバックを行います。疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員の1/3は関連領域の実務経験を持ちます。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。毎回担当する教員がれ替わりますが、とりまとめは黒田（6号館6510）です。						

授業科目名	環境情報学概論Ⅱ		科目コード	371002	授業コード	423703
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信、大八木 麻希		科目ナンバリング	EFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	・地域の持続的発展のために貢献できる。・多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。					
授業のねらい	本講義は、地域のオープンデータを活用した実践的な学びを通じて、データ解析や情報活用スキルを習得するとともに（情報技術領域の学び）、地域イベント（メディア表現領域の学び）の参加や四日市港クルーズ（環境科学専攻の学び）の見学を通じて、地域社会の仕組みや課題を体験的に理解することを目指します。環境情報学部への学びに対する理解を深め、それぞれの専攻の特性や役割を認識するとともに、地域社会への理解を深めることをねらいとしています。					
到達目標	・データ解析や情報活用の基本的なスキルを身につける。 ・地域社会の仕組みや課題を理解する。 ・環境情報学部で学ぶ各専攻の特性や役割を具体的に理解する。 ・地域社会と自らの学びを結びつける視点を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 オープンデータの活用1（オンデマンド） 第3講 オープンデータの活用2（オンデマンド） 第4講 オープンデータの活用3（オンデマンド） 第5講 オープンデータの活用4（オンデマンド） 第6講 ポスター発表イベントへの参加（大学祭） 第7講 地域イベントの見学（10/18 or 10/19予定） ※10月18日または19日に予定されている地域イベントの見学が、第7講の講義。 第8講 四日市港クルーズ説明会 第9講 四日市港クルーズ（12/24 or 12/25 or 12/25予定） ※見学参加が、第9～11回の講義になります。 第12講 四日市港クルーズ 第13講 四日市港クルーズ 第14講 四環展見学 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。					
成績評価方法	定期試験はありません。各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleや翌週の講義でフィードバックを行います。疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。					
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。					
実務経験のある教員	担当教員の2/3以上は、関連領域で実務経験を持ちます。					
担当者から一言	講義はオムニバス形式で幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめは黒田（6号館6510）です。					

授業科目名	四日市公害論			科目コード	371003	授業コード	426501
担当教員	森 康則			科目ナンバリング	EFC2001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	四日市市は、四日市ぜんそくを引き起こした都市環境問題と、その対策と改善の歴史を体感してきました。その観点から四日市市は、都市環境学を学ぶうえで、全国的にも象徴的な都市ということが出来ます。本講義では、都市部特有の大気・水・廃棄物などの環境問題、エネルギーや水供給などのインフラストラクチャーなど、都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修します。						
到達目標	本講義では、環境問題、特に都市環境に関する専門知識や技術を習得するとともに、都市環境問題の社会的課題や特徴について学修していきます。具体的には、現代社会における都市部の大気環境、水環境をはじめ、エネルギーシステム、廃棄物処理システム、水供給システムなど、都市環境の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修し、さらに防災やインフラストラクチャーの整備についての理解を深めます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 都市環境とは 第3講 都市の大気環境と水環境 第4講 都市環境のモニタリング 第5講 都市災害 第6講 都市のインフラストラクチャー 第7講 都市のエネルギー供給システム 第8講 都市の水供給システム 第9講 都市の廃棄物処理システム 第10講 四日市ぜんそく 1 第11講 四日市ぜんそく 2 第12講 施設見学 1 第13講 施設見学 2 第14講 グループワーク 第15講 まとめ 2025年12月頃の週末に、四日市市内の環境学習施設での開講を予定しており、基本的には開講場所での現地集合、現地解散になります。開講場所の中には、交通不便地が含まれており、交通費や交通手段が必要になる場合があります。 現時点では、2025年12月7日（日）、12月20日（土）、12月21日（日）を予定していますが、履修登録人数等によっては変更になる場合があります。詳細は2025年10月上旬頃に、履修登録者に対してMoodleかUNIPAでアナウンスします。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。						
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 60点 （2）レポート課題 40点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に小テストの採点および答え合わせを行います。レポート課題については、Moodleにコメントを付けます。						
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、環境保全施設の見学等などに関するレポートやグループワークを実施することで、能動的に学修する機会を得ます。						
実務経験のある教員	担当教員には、都市環境規制に関する実務経験があります。						
担当者から一言	本講義では、環境保全施設の見学などを通じて、座学だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと思います。						

授業科目名	環境保全学			科目コード	371203	授業コード	423806
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	ENE2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。						
到達目標	環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 生物にとっての環境とは 第3講 人による環境変化の歴史 第4講 生物の絶滅、その歴史と現在 第5講 生物多様性とは 第6講 生物多様性を脅かす危機 第7講 生物資源と遺伝資源 第8講 生態系サービスの概念 第9講 生物多様性条約とCOP10 第10講 気候変動と生物多様性 第11講 持続可能な社会に向けた取り組み- ESDとSDGs、ネイチャーポジティブ 第12講 保全生物学の考え方 第13講 環境アセスメント 第14講 環境保全のために私たちができること 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「生物多様性という名の革命（デヴィッド・タカーチ）日経BP社、2006」、「最新 日本の外来生物（自然環境研究センター）平凡社、2019」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	環境エネルギー論		科目コード	371208	授業コード	426101
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	ENE3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。 ・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・地域の持続的発展のために貢献できる。					
授業のねらい	現代の生活になくなくてはならないエネルギーの原理や歴史を学び、身のまわりにあるエネルギーの価値について理解を深めます。また、世界がカーボンニュートラルを目指す中で、利用拡大が求められている再生可能エネルギーについても学びます。最終的に、将来の日本がどのような電源で構成することが望まれるか、自分なりの意見を持てることを目指します。					
到達目標	環境問題、エネルギー問題に関する専門知識や技術を習得するとともに、これらの観点から、グローバルまたはローカルな社会的課題について、理解を深めます。具体的には、火力や原子力といった従来型エネルギーだけでなく、再生可能エネルギー、新エネルギーも含めて、これらの歴史的背景、エネルギー技術の原理、またこれらの利用に伴う環境問題について、学修します。					
授業計画	第1講 ガイダンス・エネルギーとは 第2講 エネルギーの基礎 第3講 エネルギーの歴史 第4講 火力発電 1 第5講 火力発電 2 第6講 原子力発電 1 第7講 原子力発電 2 第8講 再生可能エネルギー 1 第9講 再生可能エネルギー 2 第10講 施設見学 1 第11講 施設見学 2 第12講 施設見学 3 第13講 施設見学 4 第14講 グループワーク 第15講 まとめ 2025年6月頃の週末に、四日市市内、川越町内の環境学習施設、エネルギー施設での開講を予定しています。基本的には開講場所での現地集合、現地解散になります。開講場所の中には、交通不便地が含まれています。若干の交通費や交通手段が必要になる場合があります。 現時点では、2025年6月7日（土）、2025年6月14日（土）、2025年6月22日（日）の3日間を予定していますが、開講日時、開講場所は、履修登録人数等によって変更になる場合があります。詳細は、2025年4月下旬に、履修登録者に対して、MoodleかUNIPAでアナウンスします。					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。					
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 60点 （2）レポート課題 40点 計 100点					
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に小テストの採点および答え合わせを行います。レポート課題については、Moodleにコメントを付けます。					
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、エネルギー施設の見学等により、実際に発電が行われている現場を間近に体験することにより、能動的に学修する機会を得ます。					
実務経験のある教員	担当教員には、石油代替エネルギー開発に関する研究の実務経験があります。					
担当者から一言	本講義では、滅多に見ることのできないエネルギー施設の見学などを通じて、座学だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと思います。					

授業科目名	資源循環論		科目コード	371209	授業コード	421504
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	ENE3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。 ・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・地域の持続的発展のために貢献できる。					
授業のねらい	我々の生活に不可欠な資材やエネルギーの基盤となる多様な資源について、その獲得・加工・貯蔵・利用・廃棄など、循環とそれらに関わる諸問題を、ローカルレベル（生活圏）からグローバルレベルに至るまで、さまざまな視点で学びます。					
到達目標	環境問題、特に廃棄物問題に関する専門知識や技術を習得するとともに、これらの観点から、グローバルまたはローカルな持続的発展のための社会的課題について、学修します。具体的には、我々の生活・社会を支えている資源と、その獲得・加工・貯蔵・利用・再生・廃棄・処分という一連の流れと付随する問題、ひいては、資源循環に関する社会的課題について、理解します。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 廃棄物処理の歴史 第3講 3Rとは 第4講 廃棄物の減量 第5講 資源循環1 第6講 資源循環2 第7講 資源循環3 第8講 廃棄物の区分 第9講 一般廃棄物 第10講 廃棄物の処理1 第11講 廃棄物の処理2 第12講 廃棄物の処理3 第13講 特殊な廃棄物の処理 第14講 廃棄物処理・資源循環に係る法規 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。各講義の小テストや期末課題は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。					
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点×15回＝75点 （2）期末課題 25点 計 100点					
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行い、Moodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。詳細については、MoodleやUNIPAを使って、アナウンスします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleで提出された小テストには質問欄を設けています。適宜、次回講義時にその回答やフィードバックを行います。					
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見の中で、着眼点が良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図ります。					
実務経験のある教員	担当教員には、廃棄物規制に関する実務経験があります。					
担当者から一言	本講義はオンライン方式ですので、講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行います。くれぐれも見落としのないように注意してください。また、自分のペースで学習ができる反面、自律的に受講しないと単位取得まで到達しません。みなさんの受講に対する自律的な姿勢に期待しています。					

授業科目名	地理情報システム論		科目コード	371210	授業コード	425502
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	ENE3003		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。					
授業のねらい	フィールドワーク等における環境データの収集から分析までの流れを理解する。					
到達目標	データを収集し、自然環境の現状や人間活動の影響を分析・評価することができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 環境データとは 第3講 フィールドでの環境データ収集法1 第4講 フィールドでの環境データ収集法2 第5講 データ分析の基本 第6講 Excelによるデータ管理 第7講 データの可視化 第8講 Excelによるグラフと表の作成 第9講 統計処理の手法 第10講 データベースの活用 第11講 データベースの構築 第12講 GISによるデータ分析 第13講 データ処理を活用した報告書の作成 第14講 データを扱う上での注意点 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	田中絵里子・小林貴之, 2018. 「データ処理の手法と考え方」 共立出版.					
事前・事後学習	復習は必ずしてください。					
成績評価方法	小テスト（20点）ならびに中間テスト（80点）で評価します。					
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。					
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。					
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。					
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します					

授業科目名	食品微生物学		科目コード	371225	授業コード	423407
担当教員	荏田 修一		科目ナンバリング	EFE2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる					
授業のねらい	微生物は地球環境の形成に重大な役割を持っており、様々な環境問題について解決する手段とし活用が期待されている。そこで、微生物学の基礎を学ぶとともに、環境中での各種微生物の働きについて事例紹介をふまえて知り、活用への理解を深める。					
到達目標	本講義では、環境微生物について、多角的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。現在地球規模で問題となっているさまざまな課題への自身の考えを正しく持つことを目標とする。					
授業計画	第1回 ガイダンス、微生物学の歴史 第2回 微生物の分類 第3回 環境中の微生物分布 第4回 物質循環に関わる環境微生物 第5回 微生物の構造 第6回 微生物の栄養と増殖 第7回 微生物の代謝 第8回 微生物の増殖制御と殺菌 第9回 各圏の環境微生物の働き 第10回 極限環境微生物 第11回 微生物による排水処理 第12回 微生物による汚泥処理 第13回 食糧生産と微生物 第14回 環境モニタリング 第15回 微生物とバイオエネルギー 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	環境微生物学，久保幹ほか，化学同人，3000円+税					
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、毎回、授業を振り返り、新しく学んだことをまとめること、さらに、課題を課すので、調べた上、提出すること。関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。					
成績評価方法	課題50%、試験50%					
授業内の課題・提出方法	講義の最後に関連する問題や課題を解き、Moodle上で提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題については毎回コメントをMoodle上で伝え、多くがの学生が疑問や難解と感じたことを解説をします					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	大関（株）総合研究所で微生物を扱う業務についていた					
担当者から一言						

授業科目名	食品衛生学		科目コード	371226	授業コード	423807
担当教員	荏田 修一		科目ナンバリング	EFE2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる					
授業のねらい	風通しや日当たりなどの住まいの快適さ、水や食事など食生活の質といった生活環境が、私たちの生命や健康に影響を与えることは古くから知られていた。この講義は生活者側の視点から、生活環境が人の健康や暮らしにどのような影響を与えるかを学ぶ。					
到達目標	人の健康と病気のしくみについて理解する。安全で快適な住まいや労働環境について理解する。水や食事等の食生活が健康に与える影響を理解する。わが国において健康と生活を守るしくみがどのように成り立っているか理解する。生活に関わる地域環境問題について理解する。					
授業計画	第1回 ガイドンス、安全で快適な暮らしと生活環境 第2回 人の健康・病気と有害物質の影響 第3回 大気・空気環境と生活や労働に適した温熱条件 第4回 水と生活のかかわり 第5回 食生活と健康 第6回 食品と微生物 第7回 食品の変質① 腐敗と化学的変質 第8回 食品の変質② 変質の防止 第9回 食中毒① 食中毒の概要と発生状況 第10回 食中毒② 微生物による食中毒 第11回 食中毒③ 自然毒・化学物質による食中毒 第12回 有害物質による食品汚染 第13回 汚水や廃棄物の処理 第14回 生活環境問題① 大気汚染・水質汚濁 第15回 生活環境問題② 土壌汚染・地盤沈下・感覚公害 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布する					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。授業の振り返りと、この授業で分かったことを簡単にまとめ、Moodle上に提出すること。毎回の授業で課題を課すので、課題について調べ学習をすること。また、各回の講義で配布した資料で復習すること(90分)					
成績評価方法	課題の評価 50%、最終試験 50%					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるため、授業で理解したことをMoodle上に提出する。また課題についてもMoodle上に提出すること					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題については、評価を含め、Moodle上でコメントをする。その上で疑問や理解度が足りない部分については、解説を行う					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	大関（株）総合研究所で微生物を扱う業務についていた					
担当者から一言						

授業科目名	コンピュータ音楽論		科目コード	371311	授業コード	422209
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	EMS3003		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる専門技術者に求められる倫理観を身につけている					
授業のねらい	コンピュータを使ったモノづくりが近年、当たり前になりつつあります。この講義では、3Dでの設計・造形や、コンピュータを使った音の合成について座学と自習で学びます。					
到達目標	Fusion360を使用して、3Dでの設計や造形を学び、自分のアイデアを形にする方法を習得する。また、コンピュータを使用し、自分で様々な音を合成する方法の習得を目指す。					
授業計画	1. ガイダンス 2. 立体造形1 3. 立体造形 2 4. 立体造形 3 5. 立体造形 4 6. 立体造形5/立体出力の概要 7. 立体出力1 8. 立体出力2 9. 立体出力3 10. 音の創作1 11. 音の創作2 12. 音の創作3 13. 音の創作4 14. 音の創作5 15. まとめ ※全ての講義にパソコン実習を含みます					
テキスト・教材（参考文献）	授業中に指示する。 ノートと筆記具、ファイルを必ず持ってくる事。					
事前・事後学習	授業ノートの整理(60分)配布資料やテキストでの予習(30分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)					
成績評価方法	授業中の課題提出(50%) 受講態度(50%)					
授業内の課題・提出方法	基本は学内提出フォルダを使用し、必要に応じてムードルやメールを指示。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週以降に講評できるものは講評する。 当日可能な場合は、全体での講評を行う。					
アクティブラーニング	パソコン実習					
実務経験のある教員	3Dプリンターと3D CADを用いた機械パーツ製作業務経験者 音楽作品提供業務経験者					
担当者から一言	自分の考えを、コンピュータを使って表現していく方法は、様々あります。この講義では、立体造形とDTMの中でも音の創作を学びます。新しい事に挑戦してみましょう。					

授業科目名	感性と創造			科目コード	371314	授業コード	425608
担当教員	黒田 淳哉			科目ナンバリング	ESP2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	文化が生まれるところには、はじめに「遊び」があります。その遊びが社会的に評価され、継続することにより文化として定着していきます。音楽の文化や、現在のSNS化も元を正せば、ちょっとした工夫や遊びの延線上に花開いたものです。本講義では、遊びの感覚でメディア作品制作を体験することから始め、最終的には作品制作を通して自分自身の感性と向き合い、個々の創造力を育むことを目的としています。						
到達目標	・メディアの作品制作に必要な各ステップを経験する。 ・仲間と適切なコミュニケーションを取りつつ、制作に積極的に取り組むことができる。 これらを到達目標としながら、自分の中にある隠れた一面や才能の発見を指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要～写真1 第2講 写真2 第3講 発表～講評（プレゼンテーション） 第4講 絵コンテ（企画・構成） 第5講 絵コンテ（グループワーク） 第6講 絵コンテ（グループワーク） 第7講 発表～ディスカッション 第8講 発表～ディスカッション 第9講 ストップモーションムービー（グループワーク） 第10講 ストップモーションムービー（グループワーク） 第11講 ストップモーションムービー（グループワーク） 第12講 発表～講評（プレゼンテーション） 第13講 発表～講評（プレゼンテーション） 第14講 作品鑑賞～分析 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	講義内でいくつかメディアの作品づくりに挑戦してもらいます。その作品の完成に向けた取り組みや、作品の完成度などから総合的に評価します。（100%）						
授業内の課題・提出方法	提出した作品は、講義内の発表時に講評を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義でいくつか作品をグループに分かれて制作します。それぞれの作品を完成させることが課題です。また、完成した作品は、講義内で発表してもらいます。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク						
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。						
担当者から一言	毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、特別な理由がない限り欠席しないでください。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	表現と思想		科目コード	371315	授業コード	424103
担当教員	柳瀬 元志		科目ナンバリング	ESP2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	企画・立案、構成、演出、撮影、編集、MAやNA等、プロが映像作品を制作するステップを学んだり、静止画と文章を組み合わせでストーリーを構成する授業などを行います。特に制作した作品を発表する「プレゼンテーション」の機会を設け、「つくる」だけでなくメディアに必要な「伝える」ことの大切さ、言語化を体験して身につけることを狙いとしています。					
到達目標	プロの方法論による作品制作の演習を通じて、モノづくりの楽しさ、むつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。					
授業計画	第1講：ガイダンス ～作品制作の進め方 クリエイティビティとは何か～ 第2講：同世代の制作した映像作品を鑑賞 第3講：フォトエッセイ～静止画と文章で構築する世界線～ 第4講：フォトエッセイプレゼンテーション 第5講：基本的な機材の扱い方とカメラサイズ・動き 第6講：作品の企画立案 第7講：撮影実習？ 第8講：撮影実習？ 第9講：撮影実習？ 第10講：撮影素材合同プレビュー 第12講：編集？ 第13講：編集② 第14講：編集③ 第15講：作品合同プレビュー&まとめ ※作品の進捗状況により、内容の変更・入れ替えがあります。					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキスト及び参考文献や資料を配布します。					
事前・事後学習	制作授業以外にも、自ら継続的に創作活動を行う意識を持ってください。日々様々なメディアを利用して、話題となっているイベントや展覧会、映画、CM、舞台、テレビ番組、小説、配信番組、ライブコンサートなど、スキルアップにつながる行動をどん欲に行う習慣を身につけてください。					
成績評価方法	授業・課題への取り組む姿勢 30% 課題制作への意欲・参加度 30% 作品内容・完成度 20% 試験に代わる課題、もしくはレポート 20%					
授業内の課題・提出方法	教員に直接手渡し、もしくはメール、教学課提出BOX MOODLEなど、適切な方法を指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じて採点、返却します。					
アクティブラーニング	映像作品の制作に関する基礎基本的な静止画の撮影、文章表現、機材を用いての撮影体験やシミュレーションを行います。					
実務経験のある教員	中京テレビをはじめ、在名各テレビ局で番組制作の経験あり。現在も現役ディレクターとして企画から完パケまでを手掛けている。					
担当者から一言	使用する機材の台数の関係上、18名を上限として定員を設けます。普段から多種多様な作品に触れ、美術鑑賞や観劇など自分自身の「見る目」を養ってください。グループで行う作業が数多くあります。「遅刻」「欠席」をしないよう責任と自覚をもって取り組んでください。					

授業科目名	映像概論	科目コード	371316	授業コード	424204
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。				
授業のねらい	映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠をつかむことを軸に様々な角度から映像を追求していきます。座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター（脚本家・ドキュメンタリストなど）を招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて映像のリアルを学びます。				
到達目標	①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応できるアンテナが張れるようになる。 ②授業を通じて一通りの映像制作のノウハウを学び、知識とスキル向上させる				
授業計画	第1講 ガイダンス ～映像概論のススメ方～ 第2講 映像の歴史 ～誕生から現在～ 第3講 世界で評価される日本映画・前編 第4講 世界で評価される日本映画・後編 第5講 世界で評価される日本映画・その撮影技法と感想 第6講 テレビ番組ができるまで ～企画・取材・撮影・編集～ 第7講 失敗しないインタビューのノウハウ 第8講 台本・脚本の作り方（外部講師） 第9講 作品鑑賞①（サイレント映画にみる映像構成とルール） 第10講 作品鑑賞②（地元をテーマにしたドキュメンタリー） 第11講 ローカルメディアの使命と役割 第12講 新聞はオワコンか 第13講 CMの変遷 第14講 メディアの役割と課題 第15講 ドキュメンタリー論（外部講師） ※授業の進捗状況により、内容の変更や入れ替えがあります				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてテキストや資料を配布				
事前・事後学習	ジャンルを問わず、毎日映像に触れる時間を持つ。見ることをすなわち学習です。さらに読書にも親しむこと。文字情報を脳内で映像に変換する練習を積んでください。とにかく、よく見てよく読む。これが映像制作の事前・事後学習です。				
成績評価方法	授業取り組む姿勢：30%（出席率や授業態度など） 課題への取り組み：30%（内容のクオリティー、締め切り順守） 定期試験もしくは試験に代わるレポート：40% 必要に応じてフィードバックします。				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、教学課の提出用レターケース、MOODLEのなかで最も効率よく提出できる方法を課題ごとに選択します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバックします。 授業内で合評することもあります。				
アクティブラーニング	プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション・ディベート・フィールドワークなど、概論として座学の中に人前で発表する時間も設けます				
実務経験のある教員	テレビ番組のディレクターとして35年の経験。現在も名古屋の民放で現役としてスポーツ中心に取材をしている。現場で培ったノウハウを中心に授業を行います。				
担当者から一言	現役ディレクターとして、映像の面白さ奥深さを伝えていきます。また希望者にはテレビ局の見学ツアーも行っています。 生放送直前の緊張感あるスタジオや、プロ集団による放送テクニック、皆さんと同じくらいの年齢のスタッフが働く現場など、リアルに体験する場を設けます。				

授業科目名	照明概論		科目コード	371317	授業コード	426102
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信		科目ナンバリング	ESP2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	音響と照明に関する基礎技術を「集中講義」で身につけます。機材の取り扱いから始まり、プロの制作現場に必要な技術を実践的に学びます。ライブコンサートにおける音響や照明技術を学びたい学にとっては必須の講義であり、後学期に開講の「音響照明概論」と併せて受講することをお勧めします。 ※ 本講義は「音響照明概論」の後に履修することが望ましい。					
到達目標	・音響と照明の機材を適切に取り扱うことができる。 ・音と光の演出に必要な技術を身につける。 ・仲間と協力しながら建設的な取り組みができる。					
授業計画	<1日目：7/19（土）1限～5限予定> 第1講 照明1「ガイダンス～機材の説明～光の種類」 第2講 照明2「カラーチューニング」 第3講 照明3「機材セッティングについて」 第4講 照明4「照明制御システムの理解」 第5講 照明5「照明プログラミング」 <2日目：7/20（日）1限～5限予定> 第6講 音響1「音響仕込み図の読み方」 第7講 音響2「出力系(スピーカー等)のセッティング」 第8講 音響3「入力系(マイク等)のセッティング」 第9講 音響4「ミキサーの設定」 第10講 音響5「スピーカーの音質調整」 <3日目：8/2（日）1限～5限予定> 第11講 調整1 第12講 調整2 第13講 リハーサル 第14講 本番 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくこと（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	定期試験はありません。各回の講義・実習ごとに取り組み態度と成果で評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。					
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、実習					
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎技術をわかりやすく指導します。					
担当者から一言	・履修定員を設けるため、受講希望数が多い場合は抽選をいいます。 ・本講義は3日間の「集中講義」であるため、遅刻や欠席が、評価に大きく影響します。 ・怪我を防ぐために、室内のシューズと作業用の手袋を用意してください。					

授業科目名	音響概論		科目コード	371318	授業コード	424704
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信		科目ナンバリング	ESP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	音響と照明に関する、それぞれの基礎知識を「オンデマンド授業」で講義します。光と音の性質を知ることから始まり、演出法や理論、メカニズムやシステムに関する内容を扱います。音響・照明を用いたメディア表現を目指す学生にとってこの講義は基礎となるものであり、それぞれの入門として位置づけられます。2年前期開講の「音響照明技術」とあわせて履修することを推奨します。 ※「響照明技術」より前に履修することが望ましいです。					
到達目標	光と音の性質や理論に関する基礎知識や、機材の構造や原理が理解できるようになること。さらには、音響や照明の専門用語や単位、計算方法について理解できるようになること。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 照明1「光源」 第3講 照明2「光の単位」 第4講 音響1「音とは」 第5講 音響2「マイクとスピーカー」 第6講 照明3「色彩と照明」 第7講 照明4「色温度と演色性」 第8講 音響3「電気の基礎」 第9講 音響4「音を制御する機器」 第10講 照明5「照明配光と陰影効果」 第11講 照明6「映像照明」 第12講 音響5「音のデジタル処理」 第13講 音響6「PA（コンサート・舞台音響）」 第14講 照明7「照明制御システム」 第15講 音響7「録音（コンテンツ制作）」					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	毎回の講義の課題（40％）、定期試験（60％）により評価します。					
授業内の課題・提出方法	レポート、テストの解説はMoodleやオンデマンド動画内で適宜コメントします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説はMoodleを使って適宜コメントします。					
アクティブラーニング	オンデマンド、Moodle					
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎技術をわかりやすく指導します。					
担当者から一言	この講義はオンデマンド講義です。課題の提出状況が評価に大きく影響します。動画を計画的に視聴し、課題に取り組んでください。					

授業科目名	プログラミング		科目コード	371324	授業コード	422109
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	EIF2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	プログラミングは、環境科学/情報技術/メディア表現の各分野を学ぶ上で、非常に有効な手段となり得る。こういった目的に対してプログラミングという手段が有効であるかを把握し、目的を達成する手段としてのプログラミングを学ぶ。プログラミングにはさまざまな手法や言語があるが、その中でも幅広い分野で使用されている言語のPythonを例に、プログラミングの基本を学ぶ。					
到達目標	プログラミングとはどういうものかを理解し、基本的なプログラミングができるようになること。 プログラミングに必要な情報を自ら調べて自ら学べる、自走可能な状態になること。					
授業計画	第1講 ガイダンス・プログラミング言語Pythonでできる事・実習環境について 第2講 画面出力・型・変数・算術演算子 第3講 比較演算子・論理演算子 第4講 データ構造1(リスト) 第5講 データ構造2(辞書・タプル・集合) 第6講 制御フロー1(if文) 第7講 制御フロー2(for文) 第8講 制御フロー3(while文、continue、break) 第9講 関数 (関数定義・引数・戻り値・デフォルト引数) 第10講 クラス・オブジェクト1 (オブジェクト思考の概念について) 第11講 クラス・オブジェクト2 (クラス定義・クラス変数・コンストラクタ・スコープについて) 第12講 ライブラリの利用1(標準ライブラリ) 第13講 ライブラリの利用2(外部(非標準)ライブラリ) 第14講 ライブラリの利用3(ファイルの操作(テキスト, CSV, エクセル)) 第15講 まとめ～プログラミング技術を使った課題の解決方法について 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	松浦健一郎 著, 司ゆき 著「Python[完全]入門」SBクリエイティブ(2021)					
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。(180分/週) 実習環境はWebブラウザを使用してプログラミング及びその実行を行う事ができる、Google社のColaboratoryというサービスを利用します。 各自、初回の講義の前にGoogleアカウントを作成の上、ログイン情報を忘れずにメモしておくこと。					
成績評価方法	「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)					
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、Googleドライブでのファイル共有での提出とする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は翌週の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。					
アクティブラーニング	プログラミング実習					
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。					
担当者から一言	「プログラム実習基礎」が履修済みである必要はありません。 実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。					

授業科目名	システム管理論		科目コード	371326	授業コード	423506
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	EIF2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	「プログラミング実習応用1」で学習したプログラミング技術の基礎をもとに、発展的な課題に取り組む。 プログラミング技術を環境科学/情報技術/メディア表現の各分野での活用する為の知識と、応用の足掛かりを身につける。					
到達目標	プログラミング技術を使って目的を実現する事ができる。 また、その為の手段を自ら見つける事ができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス・実習環境について IDEの使い方・デバッグ 第2講 プログラミング実習応用1 復習/ローカル環境での演習1 第3講 プログラミング実習応用1 復習/ローカル環境での演習2 第4講 ファイル操作(CSVファイル, テキストファイル, エクセルファイル) 第5講 Webサーバー構築(Flask) 第6講 NumPyの基本 第7講 NumPy応用例(画像処理) 第8講 モジュール・パッケージ・コマンドライン引数 第9講 OpenCVで画像処理 第10講 データ分析(Pandas, Matplotlib) 第11講 機械学習(scikit-learn) 第12講 オープンデータ分析 第13講 GUIプログラミング(tkinter) 第14講 その他ライブラリ 第15講 まとめ・自由課題 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	松浦健一郎 著, 司ゆき 著「Python[完全]入門」SBクリエイティブ(2021) ※プログラミング実習応用1 で使用した参考書と同一					
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。(180分/週) 本講義では「プログラミング実習応用1」とは違い、Webブラウザを使ったGoogle社のColaboratoryでの実習ではありません。ローカル(手元にあるコンピューター)のPython環境を用いて実習を行います。授業外でもPython環境をインストールされたコンピューターで自習が出来るよう、環境を整えることを推奨します。					
成績評価方法	「提出物」(70%)、「定期試験」(30%)					
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、MoodleもしくはTeamsでの提出とする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は次回の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。					
アクティブラーニング	プログラミング実習					
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。					
担当者から一言	「プログラミング実習応用1」が履修済みである必要がありますが、「プログラム実習基礎」が履修済みである必要はありません。 実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。					

授業科目名	「人間たれ」Ⅱ		科目コード	181002	授業コード	415501
担当教員	小林 慶太郎、浅井 雅、二村 建也、倉田英司、フェリペ フェハリー、永井 博		科目ナンバリング	GEFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力					
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。					
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。					
授業計画	第1講（9/26）ガイダンス「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林） 第2講（10/3）情報リテラシーと犯罪対策（三重県警サイバー犯罪対策課） 第3講（10/10）日本の財政状況と税金（財務省 津財務事務所） 第4講（10/17）お金をうまく管理しよう①（二村） 第5講（10/24）お金をうまく管理しよう②（二村） 第6講（10/31）お金をうまく管理しよう③（二村） 第7講（11/7）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学2期生 原田さん（津市職員）） 第8講（11/14）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ホック・モビヌルさん） 第9講（11/21）教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（永井） 第10講（11/28）世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林） 第11講（12/5）教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（倉田） 第12講（12/12）外国人研修生の日本での生活紹介および子供の森計画について（オイスカ） 第13講（12/19）教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（浅井） 第14講（1/9）教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（フェハリー） 第15講（1/16）教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（小林） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序・内容は変更になる場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。					
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。					
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60%）と、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。					
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。					
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。					
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。					
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。					

授業科目名	四日市学		科目コード	181003	授業コード	415201
担当教員	岡 良浩、青木 陽子、倉田 英司、鬼頭 浩文、小林 慶太郎、永井 博		科目ナンバリング	GEFC1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力					
授業のねらい	この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境など多面的に四日市について理解する機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただきたいと思います。					
到達目標	講義は13回にわたる様々なテーマの座学とフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。 1. 「四日市」を多面的に理解すること 2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること 3. 地域の課題を発見して考察を行うこと 4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること					
授業計画	第1講(4/11) ガイダンス+フィールドワークの説明(岡) 第2講(4/18) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭[司会]；四日市公害と環境未来館) 第3講(4/25) 「四日市の産業」(岡[司会]；四日市市商工農水部) 第4講(5/9) 「四日市の文学者たち」(永井[司会・講義]) 第5講(5/16) 「四日市の歴史」(永井[司会]；四日市市博物館学芸員) 第6講(5/23) 「四日市の多文化共生」(青木[司会]；四日市市多文化共生推進室) 第7講(5/30) 「四日市の食」(小林[司会・講義]) 第8講(6/6) 「四日市の都市計画」(倉田[司会]；四日市市都市整備部) 第9講(6/13) 「四日市の文化財」(鬼頭[司会]；四日市市文化課) 第10講(6/20) 「四日市市のシティプロモーション」(岡[司会]；四日市市シティプロモーション部) 第11講(6/27) 「四日市市の危機管理と防災」(鬼頭[司会]；四日市市危機管理統括部) 第12講(7/4) 「四日市市の子育て支援」(松本[司会]；四日市市こども未来部) 第13講(7/11) 「四日市市の行財政」(小林[司会]；四日市市財政経営部) フィールドワーク(第14・15講分) 四日市市博物館等でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。					
テキスト・教材(参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。(Moodleでの配布を予定)					
事前・事後学習	事前学習：講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習(90分程度) 事後学習：講義中の課題を行う(90分程度)					
成績評価方法	以下の3つで総合評価します。 講義中の課題(リアクションペーパー) 各200字程度(60%) フィールドワークに関するレポート(20%) 学期末試験(20%)					
授業内の課題・提出方法	毎回、課題を設定し小レポートを提出(Moodleを使用予定)					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックを行います。					
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。					
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいます。					
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいと思います。					

授業科目名	社会福祉概論			科目コード	181204	授業コード	411605
担当教員	松本 彩月			科目ナンバリング	GELA1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持つようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史的変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアリズムとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。 ＜参考文献＞ 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	＜評価＞ 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞ 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞ コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体に地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方をすることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	キャリア基礎b		科目コード	181502	授業コード	411701
担当教員	三田 泰雅、二村 建也、小西 琴絵、松本 彩月、岡 良浩、鶴田 利恵		科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。					
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる					
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①キャリアとは 3 労働②キャリアを考えるには 4 労働③現代社会の職業 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③世界の中の日本の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて					
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。					
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）					
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。					
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。					
アクティブラーニング	小レポート					
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。					
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。					

授業科目名	キャリア基礎 c		科目コード	181503	授業コード	413301
担当教員	小林 慶太郎、小西 琴絵		科目ナンバリング	GECC1003		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	この科目では、前の学期に引き続き、卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えていきます。自分の「就きたい職業」や「働きたい業界」をどのように見つけ、そして、就職活動をどのように進めていったら良いのか、実践も交えながら探っていきます。現在の日本の就職事情等をしっかり把握し、自ら主体的に行動できるようになることをねらいとしていますので、進学等を予定しているなどで卒業後すぐに就職をしないつもりの方の学生にとっても、有益な授業になるはずです。					
到達目標	以下の3つの到達目標があります 1. なぜ、どのような仕事に就きたいのかを、自らの言葉で説明できるようになる（志望理由） 2. 自らがどんな人間であるのかを長所・短所も含めて客観視して説明できるようになる（自己PR） 3. 自らの大学生活を振り返り、どのようなことに取り組み、どのような力を育んできたのかを説明できるようになる（ガクチカ）					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 就職活動のすすめ方 第3講 インターンシップ・オープンカンパニーのすすめ 第4講 自己分析 第5講 エントリーシート・履歴書対策 第6講 業界・企業研究 第7講 面接対策 第8講 グループディスカッション対策 第9講 筆記試験対策 第10講 就職活動マナー 第11講 業界・企業セミナー① 第12講 業界・企業セミナー② 第13講 業界・企業セミナー③ 第14講 働く者の権利 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	適宜、資料などを配布する予定です。					
事前・事後学習	新聞やニュース、特に自らの志望する業界などに関するものに、しっかり目を通すこと（1日20分以上）。しっかり復習をし、夏のオープンカンパニーや就職活動の開始に備えること。					
成績評価方法	日頃の課題等への取組状況：60% 期末試験：40%					
授業内の課題・提出方法	ゲストスピーカーによって異なるため、授業中に指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週以降の授業中にコメントする。					
アクティブラーニング	実際に書類を書く練習をしたり、グループワークを行ったりする予定である。					
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、企業等において、就職活動等に関する情報を多く収集し、指導実績も豊富な方々です。					
担当者から一言	大学生活も振り返り点を過ぎました。自身の将来、卒業後の進路を見据えて、真剣に取り組んでいてください。					

授業科目名	ビジネスマナー			科目コード	181601	授業コード	415606
担当教員	石田 京子			科目ナンバリング	GECC1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの初級者として、様々な理論や技術の基礎を学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を２００６年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の３つの能力（１２の能力要素）です。主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人には、この社会人基礎能力が求められます。講義はとりわけビジネスマナーやビジネススキルを中心に、実社会で必要な相手目線（顧客）を意識した自己表現力を磨き、身						
到達目標	１．社会人としてのマナーの基本を学び習得することで、社会生活の様々なシーンで適切な基本的実践行動ができるようになることです。 ２．人間関係の土台であるコミュニケーションスキルを基本的に学び、そのエビデンスである心理学を理解し考察することで、相手目線に立ち、その場と関わりに応じた適切な自己表現ができるようになることです。						
授業計画	第１講 ガイダンス 挨拶の基本 第２講 マナーとコミュニケーション概論 第３講 一般的なマナー①表情・声・身体表現 第４講 一般的なマナー②敬語 第５講 ビジネスマナー①職場のルール・報連相・電話応対 第６講 ビジネスマナー②受付・案内・席次・名刺交換 第７講 ビジネスマナー③ビジネス文書・ビジネスメール 第８講 第一印象力 第９講 話す力 第10講 聴く力 第11講 考える力（主体的論理的思考） 第12講 クレーム対応・ハラスメント基礎・アンガーマネジメント基礎 第13講 プレゼンテーション原稿づくり 第14講 プレゼンテーション個人発表 第15講 総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。						
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント他を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。						
成績評価方法	定期テスト５０％、小テスト２５％、出席時の積極的態度と発言２５％。						
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。 小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。 丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確認めたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。						
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修に携わる。						
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。周りの人々と心から繋がりが合い、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築しましょう。意欲的で実行力のある学生の受講を望みます。						

授業科目名	ビジネスコミュニケーション	科目コード	181602	授業コード	412402
担当教員	石田 京子	科目ナンバリング	GECC1005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの上級者をめざして様々な技術を実践的に学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を２００６年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の３つの能力（１２の能力要素）です。主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人にはこの社会人基礎能力が求められます。講義は笑顔とホスピタリティ溢れる接客技術や、説明力・説得力・プレゼンテーション力などを含む会話術を中心にを行います。こ				
到達目標	①ビジネス社会において、人間関係の土台であるコミュニケーションスキルの理論と実践を応用的に学び習得することで、様々なビジネスシーンで相手とその関係性において適切な自己表現行動ができるようになることです。 ②接客技術や会話術を、エビデンスと実践練習で学び習得することで、主体的に考え、判断し、有言実行し、地域社会に貢献できるスキルをもつようになることです。				
授業計画	第１講 ガイダンス 仕事の意義・挨拶の基本 第２講 コミュニケーション概論・ホスピタリティ理論 第３講 パフォーマンス心理学 場と関わりの自己表現 第４講 第一印象力・電話応対 第５講 接客力・名刺交換 第６講 ビジネス文書・ビジネスメール 第７講 コンプライアンス・リスク管理・ハラスメント 第８講 心理学 セルフコーチング 第９講 心理学 交流分析 第10講 心理学 アサーティブコミュニケーション 第11講 合意形成（コンセンサス） 第12講 論理的思考力・説明力・説得力 第13講 プレゼンテーション１ 第14講 プレゼンテーション２ 第15講 総まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。				
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント他を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。				
成績評価方法	定期テスト５０％、小テスト２５％、出席時の積極的態度と発言２５％。				
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。 小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。 丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確認めたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。				
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。				
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修。就活の面接指導。				
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。心から繋がりがあい、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築するために、自身のスキルや人間力を磨きましょう。周りと共に生き、になりたい自分になるために切磋琢磨する学生を望みます。				

授業科目名	インターンシップ a		科目コード	181603	授業コード	416104
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩		科目ナンバリング	GECC1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	大学の長期休暇などで、5社以上のオープンカンパニー（1社3時間以上）に参加する。これにより、働くことについて深く理解することが本講義のねらいである。安易な受講は避けてほしいが、社会人になる準備の科目ととらえ、積極的に履修してほしい。					
到達目標	仕事・業界について知り、働くことへの理解を深める。					
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 5月（10月）説明会/申込 6月（11月）事前学習 7月（12月）事前研修 8月～9月（2月～3月）オープン・カンパニー 10月（3月）事後学習 11月（3月）単位認定 *（ ）は春季スケジュール					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。					
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。					
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。					
アクティブラーニング	オープンカンパニーは、会社の説明や実際に働く人たちの日常を知る機会であるが、ときにはディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。					
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。					
担当者から一言	気軽にチャレンジしてほしいが、安易な考えで受講することは、しないでほしい。なお、オープンカンパニーは平日昼に実施されることが多い。当然、アルバイトやクラブ活動でドタキャンすることは認められない。					

授業科目名	インターンシップ b		科目コード	181604	授業コード	416504
担当教員	鬼頭 浩文、永井 博		科目ナンバリング	GECC1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことにより、その仕事・業界に就く能力が自らに備わっているかどうかを見極めることがねらいである。就業体験では、大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就業体験し、正職員と同じ責任と目線で就業体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。 ■インターンシップを履修するための条件 ・3か月以上のアルバイトの経験（週2日以上での定期アルバイト）があることが望ましい ・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること					
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。					
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 5月：説明会（CSC主催）・・・スケジュール詳細説明／申込用紙配布 6月：面接と研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定 7月：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等 8～9月：インターンシップ 10月：事後研修と面談・・・レポート提出 11月：単位認定 ＊春期休業期間等のインターンシップについては別途説明します。					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。					
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。					
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。					
アクティブラーニング	インターンシップは、自分で考え行動することが求められる。研修先では、ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。					
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。					
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないしてほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。					

授業科目名	地学概論	科目コード	181402	授業コード	411101
担当教員	森 康則	科目ナンバリング	GELN1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある事例を交えながら学んでいきます。				
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。				
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 火山 第11講 地震 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 温泉 1 第15講 温泉 2				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。各講義の小テストや期末課題は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。				
成績評価方法	（１）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 = 75点 （２）期末課題 25点 計 100点				
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行い、Moodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。詳細については、MoodleやUNI PAを使って、アナウンスします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleで提出された小テストには質問欄を設けています。適宜、次回講義時にその回答やフィードバックを行います。				
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見の中で、着眼点が良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図ります。				
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。				
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を薦めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNI PAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、自律的に受講しないと単位取得まで到達しません。みなさんの受講に対する自律的な姿勢に期待しています。				

授業科目名	ITリテラシー		科目コード	181801	授業コード	413402
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GECI1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。					
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。					
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります					
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ￥2300＋税					
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)					
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%					
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有					
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。					

授業科目名	Webプログラミング 2		科目コード	181803	授業コード	414301
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GECI1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	Webの仕組みとプログラミングを学びます。Webプログラミング1で学んだことをもとに、より実践的な内容を学ぶ事でWebデザイン技能検定3級レベルの技術・知識を学ぶ。					
到達目標	自分でHTMLを書くことができる技術・知識の習得と、Webに関わる総合的な知識を習得することでWebデザイン技能検定3級レベルの能力を得ること。					
授業計画	全て実習を含みます 1. ガイダンス・基礎知識 2. Webサイトの概要 3. HTML① 4. HTML② 5. HTML③ 6. CSS① 7. CSS② 8. CSS③ 9. サイトの設計と制作① 10. サイトの設計と制作② 11. サイトの設計と制作③ 12. サイトの設計と制作④ 13. 模擬試験① 14. 模擬試験② 15. 模擬試験③・まとめ 定期試験 ※学習状況により内容はその都度変更する場合があります※					
テキスト・教材（参考文献）	[テキスト] 特定非営利活動法人インターネットスキル認定普及協会 「改訂版 ウェブデザイン技能検定 3級 過去問題集 (よくわかるマスター)」 富士通ラーニングメディア(FOM出版) ※テキストは変更の可能性があります。変更時は掲示をしますので掲示板をチェックしてください※ [参考図書] 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書 [改訂 2 版] 」 技術評論社					
事前・事後学習	講義前にテキスト・配布資料を読んだり整理することで理解を深める事(60分) 講義後に授業の内容を再確認し、理解を深めること(120分)					
成績評価方法	レポート・授業課題等の受講態度(50%) 定期試験(50%)					
授業内の課題・提出方法	学内サーバーフォルダを使用する場合と、Moodleやメールを使う場合があります。(その都度指定)					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	当日中、あるいは翌週に行う。					
アクティブラーニング	PC実習					
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験あり					
担当者から一言	Webプログラミング1で得た知識が重要になります。もう一度Webに関わる基礎から復習を行い、より実践的な知識・技術を身につけましょう。出席状況が悪い場合は減点を行います。課題提出がされない場合大きく減点するので課題は必ず出しましょう。					

授業科目名	社会調査入門			科目コード	182001	授業コード	413206
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GECR1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	社会について調べてデータを集めることを社会調査といいます。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えます。 調査の実例を紹介しながら、色々な社会調査の方法と、その長所や限界について学びます。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することが狙いです。						
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける						
授業計画	1ガイダンス 2社会調査の目的と意義 3社会調査の歴史 4社会調査の種類と方法 5質的調査1：インタビューの実例 6質的調査2：参与観察の実例 7質的調査3：ドキュメント分析の実例 8量的調査1：質問紙調査の実例 9量的調査2：二次分析の実例 10量的調査3：電話調査とウェブ調査 11サンプリングの歴史 12公的統計の意義と活用 13社会調査の展開1：社会地図の方法 14社会調査の展開2：アクションリサーチ 15調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点45%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのA科目です。						

授業科目名	社会調査の技法		科目コード	182002	授業コード	413604
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GECR1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。					
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。					
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施（中間まとめ） 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理					
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。					
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）					
成績評価方法	平常点45%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する					
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします					
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法					
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。					
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのB科目です。					

授業科目名	フィールドワーク論		科目コード	182005	授業コード	413404
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GECR1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	本授業は、フィールドワークにおける調査手法の選択と設計、分析結果の示し方に関する技法の習得を目的とする。講義ではデータ分析、聞き取り調査、参与観察に注目し、フィールドワークに関する報告書の内容や実際に行われた事例などを紹介することで、フィールドワークの概念を理解してもらう。また、調査目的に応じた質問項目の設計について、ディスカッションを通して学生間で考えてもらう。					
到達目標	調査に必要な独自の質問項目表を作成することができる。					
授業計画	1. ガイダンス 2. フィールドワークとは 3. フィールドワークによる調査事例 4. 目的に応じたフィールドワーク手法と対象地区 5. 地区内の現状把握手法（データ分析） 6. 地区内の課題把握手法（データ分析） 7. 地区内の現状把握手法（聞き取り調査） 8. 地区内の課題把握手法（聞き取り調査） 9. 地区内の現状把握手法（参与観察） 10. 地区内の課題把握手法（参与観察） 11. 地区内の現状・課題に関する分析結果の示し方 12. 調査結果の考察手法 13. 調査結果を踏まえた提言手法 14. 最終レポートのガイダンス 15. まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	各章のレポート作成（180分）。					
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①講義への参加度（発言等）：30% ②各回のレポート：30% ③最終レポート：40% なお、毎回提出してもらう課題については、次週回においてコメントする。					
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義時に、適宜コメントする。					
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク					
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、フィールドワーク調査を行います。					
担当者から一言	知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。 フィールドワーク調査やインタビューに関する書籍なども活用しながら、自分らしい読み解き方を考えていきましょう。					

授業科目名	社会調査実習 1		科目コード	182007	授業コード	412405
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GECR1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。特に、以下の4つの項目を重点的に、実習を運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データの分析を通してレポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの基礎強化を図ること、などが期待できる。					
到達目標	本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査を通じて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。					
授業計画	1. ガイダンス 2. 問題の整理 3. 対象について学ぶ 4. 問いを立てる 5. 先行研究をさがす 6. 先行研究の検討(1) 7. 先行研究の検討(2) 8. 仮説の形成 9. 調査項目の洗い出し 10. 調査表作成の基礎 11. 調査票の作成(1) 12. 調査票の作成(2) 13. 調査票の完成 14. 調査の実施 15. まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	報告準備をする（180分以上）。					
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①実習への参加度 50% ②期末レポート 50%					
授業内の課題・提出方法	不定期に中間報告の機会を設けます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容をもとに全員でディスカッションします。					
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク					
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、実際に現地で社会調査を行います。					
担当者から一言	この科目は、社会調査士養成ユニットのうち3科目以上の単位を取得していることが履修条件です。 社会調査士資格カリキュラム「G」科目です。なお資格取得には、同年度に「社会調査実習2」の単位も取得する必要があります。					

授業科目名	社会調査実習 2			科目コード	182008	授業コード	412804
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	GECR1008		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。以下の5項目に重点を置いて運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データを分析する。(5)レポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの強化を図ること、などが期待できる。						
到達目標	本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. データの整理 3. データ入力(1) 4. データ入力(2) 5. データ分析の基本 6. データの分析(1) 7. データの分析(2) 8. 分析結果の報告(1) 9. 分析結果の報告(2) 10. 分析結果の報告(3) 11. レポートのまとめ方 12. 報告原稿の発表(1) 13. 報告原稿の発表(2) 14. 報告原稿の発表(3) 15. 報告書の作成						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	報告準備をする（90分以上）。						
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①実習への参加度 50% ②期末レポート 50%						
授業内の課題・提出方法	不定期に報告機会を設けます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容をもとに全員でディスカッションします。						
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、実際に現地で社会調査を行います。						
担当者から一言	この科目は、社会調査士養成ユニットのうち3科目以上の単位を取得していることが履修条件です。 社会調査士資格カリキュラム「G」科目です。なお資格取得には、同年度に「社会調査実習1」の単位も取得する必要があります。						

授業科目名	全学共通特別講義 a	科目コード	182201	授業コード	416506
担当教員	倉田 英司	科目ナンバリング	GES1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力				
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。				
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。				
授業計画	10月上旬 「ガイドンス」 13:00-14:00 現状把握と課題解決の考え方 14:10-15:10 ご当地グルメを活用した町おこし 15:20-17:00 グループワーク 10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13:00-15:30 展示見学・講義 15:40-17:00 グループワーク 10月下旬 「食を活かした観光開発」 10:00-12:00 施設見学・体験 12:00-13:00 昼食・移動 13:00-14:00 農を活かした観光開発 14:10-16:10 グループワーク 11月下旬 「食と観光を踏査する」 10:00-16:10 フィールドワーク 12月上旬 「食と観光を考える」 13:00-17:00 グループワーク 12月中旬 「食と観光を発表する」 13:00-16:00 成果発表会 16:00-17:00 講評・まとめ ※ 受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料等を配布する場合があります。				
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。				
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。				
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。				
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、グループワーク、ディベート、フィールドワーク				
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。				
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずで、他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。				

授業科目名	環境情報学概論Ⅰ			科目コード	381001	授業コード	413303
担当教員	黒田 淳哉、片山 清和、足立 明信、廣住 豊一、牧田 直子、野呂 達哉、木藤 裕也、大八木 麻希、柳瀬 元志、柳澤 翔士、古山 歩、池田 幹男、前川 督雄			科目ナンバリング	EIFC2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	環境情報学部での学びの全体像を概観する講義です。環境科学専攻とメディア情報専攻の多様な授業を交互に配置し、両専攻の学問の特徴を伝えるとともに、自身の専攻を選択する際の指針となるようサポートします。授業はオムニバス形式で多数の教員が担当するため、1年次配当科目を担当していない教員を知る機会としても有意義です。さらに、進路選択や学修機会に関わる情報を提供する場としても活用します。						
到達目標	・環境科学専攻とメディア情報専攻の両専攻の学問・実践の特徴を理解する。 ・環境情報学部の全体像を把握し、学修内容や進路の可能性を具体的にイメージできる。 ・学部内の専門性の多様性を認識し、自身の興味・関心を広げる機会を得る。 ・主体的に学びを進める意識を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス～学部紹介（黒田） 第2講 里山と竹林保全（牧田） 第3講 竹山保全実習（牧田） 第4講 地域農業と環境：地域資源を農業に活かす取り組み（廣住） 第5講 Web技術を使った情報処理（片山） 第6講 水資源と地域の水環境（大八木） 第7講 プログラミング（魔方陣を解法を例として）（池田） 第8講 鯨類学：三重県周辺に生息するイルカ・クジラ類（古山） 第9講 表現の伝統文化とテクノロジー（前川） 第10講 アナログとデジタルでのモノづくり（柳澤） 第11講 北勢地域の野生動物（野呂） 第12講 音響技術体験（足立） 第13講 メディアと私たち（柳瀬） 第14講 AI深層学習：課題を解決する分野横断の技術（木藤） 第15講 環境「政策」とは？それって本当に、エコ？（鬼頭）						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	環境情報学部の概要を知り、大学での専門教育の出発点となる講義・実習です。興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。						
成績評価方法	定期試験をいません。各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとにレポートなどを課し、授業内やMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleや翌週の講義でフィードバックを行います。疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員の1/3は関連領域の実務経験を持ちます。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。毎回担当する教員がれ替わりますが、とりまとめは黒田（6号館6510）です。						

授業科目名	環境情報学概論Ⅱ		科目コード	381002	授業コード	413703
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信、大八木 麻希		科目ナンバリング	EIFC2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	本講義は、地域のオープンデータを活用した実践的な学びを通じて、データ解析や情報活用のスキルを習得するとともに（情報技術領域の学び）、地域イベント（メディア表現領域の学び）の参加や四日市港クルーズ（環境科学専攻の学び）の見学を通じて、地域社会の仕組みや課題を体験的に理解することを目指します。環境情報学部への学びに対する理解を深め、それぞれの専攻の特性や役割を認識するとともに、地域社会への理解を深めることをねらいとしています。					
到達目標	・データ解析や情報活用の基本的なスキルを身につける。 ・地域社会の仕組みや課題を理解する。 ・環境情報学部で学ぶ各専攻の特性や役割を具体的に理解する。 ・地域社会と自らの学びを結びつける視点を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 オープンデータの活用1（オンデマンド） 第3講 オープンデータの活用2（オンデマンド） 第4講 オープンデータの活用3（オンデマンド） 第5講 オープンデータの活用4（オンデマンド） 第6講 ポスター発表イベントへの参加（大学祭） 第7講 地域イベントの見学（10/18 or 10/19予定） ※10月18日または19日に予定されている地域イベントの見学が、第7講の講義。 第8講 四日市港クルーズ説明会 第9講 四日市港クルーズ（12/24 or 12/25 or 12/25予定） ※見学参加が、第9～11回の講義になります。 第12講 四日市港クルーズ 第13講 四日市港クルーズ 第14講 四環展見学 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。					
成績評価方法	定期試験はありません。各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleや翌週の講義でフィードバックを行います。疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。					
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。					
実務経験のある教員	担当教員の2/3以上は、関連領域で実務経験を持ちます。					
担当者から一言	講義はオムニバス形式で幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめは黒田（6号館6510）です。					

授業科目名	技術者研究者倫理		科目コード	381202	授業コード	413106
担当教員	前川 督雄、野呂 達哉		科目ナンバリング	EIMC4005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	環境情報学部で学ぶ皆さんは、環境・情報・メディアいずれかの領域で専門家（プロフェッショナル）となるための素養が求められます。一般人やユーザではなく、専門家として、どのような立ち位置で、どのようにものごとを見て、どのように振る舞うことが求められるか、多方面の観点から知り、考えてもらう講義です。					
到達目標	専門家・プロフェッショナルの立場からの倫理・責任を、できるだけ広く俯瞰して、当事者となっていく自覚をもつ。					
授業計画	第1講 ガイダンス／専門家とは 第2講 専門家として 個人情報の扱い 第3講 専門家として 著作権の扱い 第4講 専門家として AIの扱い 第5講 研究者として 科学体系の成り立ち／研究するとは／改竄・捏造が及ぼす影響 第6講 研究者として 実験における倫理 第7講 研究者として 社会に対する責任／共同や連携、学際研究を行う際の倫理 第8講 技術者として 安全確保と保守／社会に対する責任 第9講 技術者として 業界標準の意義／知的財産／企業秘密と守秘義務 第10講 環境技術者として 生態系のなかの人間活動 第11講 環境技術者として フィールドワークにおける倫理／地域や海外での活動倫理 第12講 メディア情報技術者として 表現するとは／表現における倫理 第13講 メディア情報技術者として 情報セキュリティと倫理 第14講 メディア情報技術者として オープンソースという貢献 第15講 まとめ 組織の一員であること／ダイバーシティへの配慮／ハラスメントの防止 （内容・順序を変更することがあります）					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。 講義中に、参考映像を視聴することがあります。					
事前・事後学習	今回の授業タイトルから内容を推測して、ネット検索などで予習を行って下さい（60分）。毎回の授業の後に復習するとともに、不明点を調べ、自分の思考・行動を振り返って考えを深めて下さい（120分）。					
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価します。					
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。					
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。					
実務経験のある教員	担当教員は専門領域のプロフェッショナルとして実務に従事してきている。					
担当者から一言	新しく設立した科目です。試行錯誤しながら進めます。					

授業科目名	環境データ処理			科目コード	381206	授業コード	415502
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	EIMC5001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	フィールドワーク等における環境データの収集から分析までの流れを理解する。						
到達目標	データを収集し、自然環境の現状や人間活動の影響を分析・評価することができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 環境データとは 第3講 フィールドでの環境データ収集法1 第4講 フィールドでの環境データ収集法2 第5講 データ分析の基本 第6講 Excelによるデータ管理 第7講 データの可視化 第8講 Excelによるグラフと表の作成 第9講 統計処理の手法 第10講 データベースの活用 第11講 データベースの構築 第12講 GISによるデータ分析 第13講 データ処理を活用した報告書の作成 第14講 データを扱う上での注意点 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	田中絵里子・小林貴之，2018．「データ処理の手法と考え方」 共立出版．						
事前・事後学習	復習は必ずしてください。						
成績評価方法	小テスト（20点）ならびに中間テスト（80点）で評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します						

授業科目名	環境情報特別講義 a		科目コード	381207	授業コード	415506
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	EIMC4006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる					
授業のねらい	この講義の目的は、イベントのプロデュースおよび運営のスキルを習得することです。講義を通じて、イベント制作に必要な基礎知識や技術を学ぶとともに、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養うことを目指します。講義の前半では、イベント制作の基礎知識を体系的に学び、後半では、チームビルディングを通じて四日市大学環境情報学展の企画・制作に取り組みます。					
到達目標	・ イベント制作に必要な各ステップを把握し、経験する。 ・ 満足度の高いイベントなるようチームで考え、実現に向けた発的動ができる。 ・ プロジェクトの全体像を分に把握し、課題を発見することができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 イベント企画の基礎 第3講 企画書作成 第4講 プロジェクトマネジメント 第5講 イベント会場の選定とレイアウト設計 第6講 集客と広報 第7講 予算管理と資金調達 第8講 出演者や関係者との調整 第9講 危機管理と安全対策 第10講 イベント運営計画の最終確認 第11講 本番直前の最終準備1（グループワーク） 第12講 本番直前の最終準備2（グループワーク） 第13講 イベント実施（実習） 第14講 イベント実施（実習） 第15講 イベント実施（実習）					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	ループリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。					
授業内の課題・提出方法	講義のほとんどは、課題に向けて取り組む制作です。取り組んだ課題は、講義内で発表してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した課題は、講義内の発表時に講評を行います。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、実習					
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。自らの力でイベントを企画・制作するための技術とノウハウを提供、指導します。					
担当者から一言	四日市大学環境情報学展までの期間、グループワークを通じて制作を進めていきます。そのため、特別な理由がない限り、講義を欠席しないでください。講義中の発言や質問は積極的に行い、主体的に参加することを期待しています。					

授業科目名	環境保全学			科目コード	381303	授業コード	413807
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	EIER2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている。						
授業のねらい	生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。						
到達目標	環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 生物にとっての環境とは 第3講 人による環境変化の歴史 第4講 生物の絶滅、その歴史と現在 第5講 生物多様性とは 第6講 生物多様性を脅かす危機 第7講 生物資源と遺伝資源 第8講 生態系サービスの概念 第9講 生物多様性条約とCOP10 第10講 気候変動と生物多様性 第11講 持続可能な社会に向けた取り組み- ESDとSDGs、ネイチャーポジティブ 第12講 保全生物学の考え方 第13講 環境アセスメント 第14講 環境保全のために私たちができること 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「生物多様性という名の革命（デヴィッド・タカーチ）日経BP社、2006」、「最新 日本の外来生物（自然環境研究センター）平凡社、2019」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業に対する積極性（50％）、期末試験（50％）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	野生動物学			科目コード	381404	授業コード	413504
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	EIEN4008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	野生動物は現在絶滅の危機にあります。一方、野生動物と人間との間に生じる軋轢は年々増加する一方です。これらの対策に携わる人材に必要な野生動物に関する基礎的知識についての理解を深めます。						
到達目標	野生動物に関する基礎的知識について拾得しすることを目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 野生動物の系統と分類 第3講 日本の野生動物の特徴と生物地理 1 第4講 日本の野生動物の特徴と生物地理 2 第5講 野生動物の個体群と生息場所 第6講 野生動物の行動と社会 第7講 野生動物の繁殖生態 第8講 野生動物をめぐる現状と課題 第9講 飼育下の野生動物の活用 第10講 野生動物の死体の活用 第11講 野生動物の保護管理 第12講 生息場所の保全管理 第13講 種と個体群の保護管理 第14講 野生動物の保護管理に関係のある法律・条約 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「野生動物学概論（田名部雄一ら）朝倉書店」、「現代の哺乳類学（朝日稔ら）朝倉書店」、「林業と野生鳥獣との共存に向けて（石井信夫・由井正敏）日本林業調査会」、「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20％）、期末試験（80％）を元に総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	野生動物調査や保護の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	環境微生物学			科目コード	381409	授業コード	413407
担当教員	荻田 修一			科目ナンバリング	EIEN4006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	微生物は地球環境の形成に重大な役割を持っており、様々な環境問題について解決する手段とし活用が期待されている。そこで、微生物学の基礎を学ぶとともに、環境中での各種微生物の働きについて事例紹介をふまえて知り、活用への理解を深める。						
到達目標	本講義では、環境微生物について、多角的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。現在地球規模で問題となっているさまざまな課題への自身の考えを正しく持つことを目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス、微生物学の歴史 第2回 微生物の分類 第3回 環境中の微生物分布 第4回 物質循環に関わる環境微生物 第5回 微生物の構造 第6回 微生物の栄養と増殖 第7回 微生物の代謝 第8回 微生物の増殖制御と殺菌 第9回 各圏の環境微生物の働き 第10回 極限環境微生物 第11回 微生物による排水処理 第12回 微生物による汚泥処理 第13回 食糧生産と微生物 第14回 環境モニタリング 第15回 微生物とバイオエネルギー 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	環境微生物学，久保幹ほか，化学同人，3000円+税						
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、毎回、授業を振り返り、新しく学んだことをまとめること、さらに、課題を課すので、調べた上、提出すること。関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	課題50%、試験50%						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に関連する問題や課題を解き、Moodle上で提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題については毎回コメントをMoodle上で伝え、多くがの学生が疑問や難解と感じたことを解説をします						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	大関（株）総合研究所で微生物を扱う業務についていた						
担当者から一言							

授業科目名	環境エネルギー論			科目コード	381501	授業コード	416101
担当教員	森 康則			科目ナンバリング	EIEP5001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	現代の生活になくてはならないエネルギーの原理や歴史を学び、身のまわりにあるエネルギーの価値について理解を深めます。また、世界がカーボンニュートラルを目指す中で、利用拡大が求められている再生可能エネルギーについても学びます。最終的に、将来の日本がどのような電源で構成することが望まれるか、自分なりの意見を持てることを目指します。						
到達目標	環境問題、エネルギー問題に関する専門知識や技術を習得するとともに、これらの観点から、グローバルまたはローカルな社会的課題について、理解を深めます。具体的には、火力や原子力といった従来型エネルギーだけでなく、再生可能エネルギー、新エネルギーも含めて、これらの歴史的背景、エネルギー技術の原理、またこれらの利用に伴う環境問題について、学修します。						
授業計画	第1講 ガイダンス・エネルギーとは 第2講 エネルギーの基礎 第3講 エネルギーの歴史 第4講 火力発電1 第5講 火力発電2 第6講 原子力発電1 第7講 原子力発電2 第8講 再生可能エネルギー1 第9講 再生可能エネルギー2 第10講 施設見学1 第11講 施設見学2 第12講 施設見学3 第13講 施設見学4 第14講 グループワーク 第15講 まとめ 2025年6月頃の週末に、四日市市内、川越町内の環境学習施設、エネルギー施設での開講を予定しています。基本的には開講場所での現地集合、現地解散になります。開講場所の中には、交通不便地が含まれています。若干の交通費や交通手段が必要になる場合があります。 現時点では、2025年6月7日（土）、2025年6月14日（土）、2025年6月22日（日）の3日間を予定していますが、開講日時、開講場所は、履修登録人数等によって変更になる場合があります。詳細は、2025年4月下旬頃に、履修登録者に対して、MoodleかUNIPAでアナウンスします。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	シラバスの次の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。						
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 60点 （2）レポート課題 40点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に小テストの採点および答え合わせを行います。レポート課題については、Moodleにコメントを付けます。						
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、エネルギー施設の見学等により、実際に発電が行われている現場を間近に体験することにより、能動的に学修する機会を得ます。						
実務経験のある教員	担当教員には、石油代替エネルギー開発に関する研究の実務経験があります。						
担当者から一言	本講義では、滅多に見ることのできないエネルギー施設の見学などを通じて、座学だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと思います。						

授業科目名	資源循環論		科目コード	381502	授業コード	411504
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	EIEP5002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	我々の生活に不可欠な資材やエネルギーの基盤となる多様な資源について、その獲得・加工・貯蔵・利用・廃棄など、循環とそれらに関わる諸問題を、ローカルレベル（生活圏）からグローバルレベルに至るまで、さまざまな視点で学びます。					
到達目標	環境問題、特に廃棄物問題に関する専門知識や技術を習得するとともに、これらの観点から、グローバルまたはローカルな持続的発展のための社会的課題について、学修します。具体的には、我々の生活・社会を支えている資源と、その獲得・加工・貯蔵・利用・再生・廃棄・処分という一連の流れと付随する問題、ひいては、資源循環に関する社会的課題について、理解します。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 廃棄物処理の歴史 第3講 3Rとは 第4講 廃棄物の減量 第5講 資源循環1 第6講 資源循環2 第7講 資源循環3 第8講 廃棄物の区分 第9講 一般廃棄物 第10講 廃棄物の処理1 第11講 廃棄物の処理2 第12講 廃棄物の処理3 第13講 特殊な廃棄物の処理 第14講 廃棄物処理・資源循環に係る法規 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。各講義の小テストや期末課題は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。					
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点×15回＝75点 （2）期末課題 25点 計100点					
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行い、Moodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。詳細については、MoodleやUNIPAを使って、アナウンスします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleで提出された小テストには質問欄を設けています。適宜、次回講義時にその回答やフィードバックを行います。					
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見の中で、着眼点が良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図ります。					
実務経験のある教員	担当教員には、廃棄物規制に関する実務経験があります。					
担当者から一言	本講義はオンライン方式ですので、講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行います。くれぐれも見落としのないように注意してください。また、自分のペースで学習ができる反面、自律的に受講しないと単位取得まで到達しません。みなさんの受講に対する自律的な姿勢に期待しています。					

授業科目名	都市環境学			科目コード	381503	授業コード	416501
担当教員	森 康則			科目ナンバリング	EIEP4006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	四日市市は、四日市ぜんそくを引き起こした都市環境問題と、その対策と改善の歴史を体感してきました。その観点から四日市市は、都市環境学を学ぶうえで、全国的にも象徴的な都市とすることができます。本講義では、都市部特有の大気・水・廃棄物などの環境問題、エネルギーや水供給などのインフラストラクチャーなど、都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修します。						
到達目標	本講義では、環境問題、特に都市環境に関する専門知識や技術を習得するとともに、都市環境問題の社会的課題や特徴について学修していきます。具体的には、現代社会における都市部の大気環境、水環境をはじめ、エネルギーシステム、廃棄物処理システム、水供給システムなど、都市環境の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修し、さらに防災やインフラストラクチャーの整備についての理解を深めます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 都市環境とは 第3講 都市の大気環境と水環境 第4講 都市環境のモニタリング 第5講 都市災害 第6講 都市のインフラストラクチャー 第7講 都市のエネルギー供給システム 第8講 都市の水供給システム 第9講 都市の廃棄物処理システム 第10講 四日市ぜんそく 1 第11講 四日市ぜんそく 2 第12講 施設見学 1 第13講 施設見学 2 第14講 グループワーク 第15講 まとめ 2025年12月頃の週末に、四日市市内の環境学習施設での開講を予定しており、基本的には開講場所での現地集合、現地解散になります。開講場所の中には、交通不便地が含まれており、交通費や交通手段が必要になる場合があります。 現時点では、2025年12月7日（日）、12月20日（土）、12月21日（日）を予定していますが、履修登録人数等によっては変更になる場合があります。詳細は2025年10月上旬頃に、履修登録者に対してMoodleかUNIPAでアナウンスします。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。						
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 60点 （2）レポート課題 40点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に小テストの採点および答え合わせを行います。レポート課題については、Moodleにコメントを付けます。						
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、環境保全施設の見学等などに関するレポートやグループワークを実施することで、能動的に学修する機会を得ます。						
実務経験のある教員	担当教員には、都市環境規制に関する実務経験があります。						
担当者から一言	本講義では、環境保全施設の見学などを通じて、座学だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと思います。						

授業科目名	生活環境学			科目コード	381504	授業コード	413808
担当教員	荻田 修一			科目ナンバリング	EIEP4002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	風通しや日当たりなどの住まいの快適さ、水や食事など食生活の質といった生活環境が、私たちの生命や健康に影響を与えることは古くから知られていた。この講義は生活者側の視点から、生活環境が人の健康やくらしにどのような影響を与えるかを学ぶ。						
到達目標	人の健康と病気のしくみについて理解する。安全で快適な住まいや労働環境について理解する。水や食事等の食生活が健康に与える影響を理解する。わが国において健康と生活を守るしくみがどのように成り立っているか理解する。生活に関わる地域環境問題について理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス、安全で快適な暮らしと生活環境 第2回 人の健康・病気と有害物質の影響 第3回 大気・空気環境と生活や労働に適した温熱条件 第4回 水と生活のかかわり 第5回 食生活と健康 第6回 食品と微生物 第7回 食品の変質① 腐敗と化学的変質 第8回 食品の変質② 変質の防止 第9回 食中毒① 食中毒の概要と発生状況 第10回 食中毒② 微生物による食中毒 第11回 食中毒③ 自然毒・化学物質による食中毒 第12回 有害物質による食品汚染 第13回 污水や廃棄物の処理 第14回 生活環境問題① 大気汚染・水質汚濁 第15回 生活環境問題② 土壌汚染・地盤沈下・感覚公害 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布する						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。授業の振り返りと、この授業で分かったことを簡単にまとめ、Moodle上に提出すること。毎回の授業で課題を課すので、課題について調べ学習をすること。また、各回の講義で配布した資料で復習すること(90分)						
成績評価方法	課題の評価 5 0 %、最終試験 5 0 %						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるため、授業で理解したことをMoodle上に提出する。また課題についてもMoodle上に提出すること						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題については、評価を含め、Moodle上でコメントをする。その上で疑問や理解度が足りない部分については、解説を行う						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	大関（株）総合研究所で微生物を扱う業務についていた						
担当者から一言							

授業科目名	地域社会と環境		科目コード	381506	授業コード	415307
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	EIEP4004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。					
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけではなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社」など。					
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。					
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。					
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。					
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。					
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。					
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。					

授業科目名	地域社会とメディア情報		科目コード	381703	授業コード	413806
担当教員	黒田 淳哉、柳瀬 元志		科目ナンバリング	EIMR2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 専攻必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	講義の前半は自らが地域イベントにスタッフとして参加し、地域を体験的に理解することから始めます。後半は、メディアや情報関連で地域をフィールドに活躍、発信を行っている方々の声を聴きながら、地域におけるメディアや情報関連の職業についてを理解を深め、自らが地域で活躍する為の発見に繋げてもらう講義です。					
到達目標	・地域で活躍しているメディア情報関連の職業を知る。 ・この学びを、地域に関連した研究活動や将来のビジョンへと繋げる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 地域と繋がる体験1（オンデマンド予定） 第3講 地域と繋がる体験2（オンデマンド予定） 第4講 地域と繋がる体験3（10/16木 5限目予定） <イベント参加10/18(土)&10/19(日)予定> ※イベントスタッフとして2日間参加することが、第5～7講の講義になります。 第5講 地域と繋がる体験4 第6講 地域と繋がる体験5 第7講 地域と繋がる体験6 <ゲストを招いた講義> 第8講 地域のイベント 第9講 イベント業界と仕事について 第10講 放送業界と仕事について 第11講 地域の放送局 第12講 地域のメディア 第13講 地域のIT 1 第14講 地域のIT 2 第15講 地域のICT					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	定期試験は行いません。受講態度と講義で提出するレポートで評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業内もしくはMoodleでミニッツペーパーやレポートを提出。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニッツペーパーへの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。					
アクティブラーニング	実習、ディスカッション、グループワーク					
実務経験のある教員	関連領域で実務経験を持つ教員がこの講義の進行を務めます。さらに、地域のメディア情報領域で活躍されている講師をゲストに招いて講義を進めます。					
担当者から一言	講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。					

授業科目名	映像概論		科目コード	381903	授業コード	414204
担当教員	柳瀬 元志		科目ナンバリング	EIMM4003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠をつかむことを軸に様々な角度から映像を追求していきます。座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター（脚本家・ドキュメンタリストなど）を招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて映像のリアルを学びます。					
到達目標	①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応できるアンテナが張れるようになる。 ②授業を通じて一通りの映像制作のノウハウを学び、知識とスキル向上させる					
授業計画	第1講 ガイダンス ～映像概論のススメ方～ 第2講 映像の歴史 ～誕生から現在～ 第3講 世界で評価される日本映画・前編 第4講 世界で評価される日本映画・後編 第5講 世界で評価される日本映画・その撮影技法と感想 第6講 テレビ番組ができるまで ～企画・取材・撮影・編集～ 第7講 失敗しないインタビューのノウハウ 第8講 台本・脚本の作り方（外部講師） 第9講 作品鑑賞①（サイレント映画にみる映像構成とルール） 第10講 作品鑑賞②（地元をテーマにしたドキュメンタリー） 第11講 ローカルメディアの使命と役割 第12講 新聞はオワコンか 第13講 CMの変遷 第14講 メディアの役割と課題 第15講 ドキュメンタリー論（外部講師） ※授業の進捗状況により、内容の変更や入れ替えがあります					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてテキストや資料を配布					
事前・事後学習	ジャンルを問わず、毎日映像に触れる時間を持つ。見ることすなわち学習です。 さらに読書にも親しむこと。文字情報を脳内で映像に変換する練習を積んでください。とにかく、よく見てよく読む。これが映像制作の事前・事後学習です。					
成績評価方法	授業取り組む姿勢：30%（出席率や授業態度など） 課題への取り組み：30%（内容のクオリティー、締め切り順守） 定期試験もしくは試験に代わるレポート：40% 必要に応じてフィードバックします。					
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、教学課の提出用レターケース、MOODLEのなかで最も効率よく提出できる方法を課題ごとに選択します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバックします。 授業内で合評することもあります。					
アクティブラーニング	プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション・ディベート・フィールドワークなど、概論として座学の中に人前で発表する時間も設けます					
実務経験のある教員	テレビ番組のディレクターとして35年の経験。現在も名古屋の民放で現役としてスポーツ中心に取材をしている。現場で培ったノウハウを中心に授業を行います。					
担当者から一言	現役ディレクターとして、映像の面白さ奥深さを伝えていきます。また希望者にはテレビ局の見学ツアーも行っています。 生放送直前の緊張感あるスタジオや、プロ集団による放送テクニック、皆さんと同じくらいの年齢のスタッフが働く現場など、リアルに体験する場を設けます。					

授業科目名	音響照明概論			科目コード	381904	授業コード	414703
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信			科目ナンバリング	EIMM4004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働						
授業のねらい	音響と照明に関する、それぞれの基礎知識を「オンデマンド授業」で講義します。光と音の性質を知ることから始まり、演出法や理論、メカニズムやシステムに関する内容を扱います。音響・照明を用いたメディア表現を目指す学生にとってこの講義は基礎となるものであり、それぞれの入門として位置づけられます。2年前期開講の「音響照明技術」とあわせて履修することを推奨します。 ※「響照明技術」より前に履修することが望ましいです。						
到達目標	光と音の性質や理論に関する基礎知識や、機材の構造や原理が理解できるようになること。さらには、音響や照明の専門用語や単位、計算方法について理解できるようになること。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 照明1「光源」 第3講 照明2「光の単位」 第4講 音響1「音とは」 第5講 音響2「マイクとスピーカー」 第6講 照明3「色彩と照明」 第7講 照明4「色温度と演色性」 第8講 音響3「電気の基礎」 第9講 音響4「音を制御する機器」 第10講 照明5「照明配光と陰影効果」 第11講 照明6「映像照明」 第12講 音響5「音のデジタル処理」 第13講 音響6「PA（コンサート・舞台音響）」 第14講 照明7「照明制御システム」 第15講 音響7「録音（コンテンツ制作）」						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	毎回の講義の課題（40％）、定期試験（60％）により評価します。						
授業内の課題・提出方法	レポート、テストの解説はMoodleやオンデマンド動画内で適宜コメントします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説はMoodleを使って適宜コメントします。						
アクティブラーニング	オンデマンド、Moodle						
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎技術をわかりやすく指導します。						
担当者から一言	この講義はオンデマンド講義です。課題の提出状況が評価に大きく影響します。動画を計画的に視聴し、課題に取り組んでください。						

授業科目名	プログラミング実習応用 1		科目コード	382002	授業コード	412108
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	EIMT6002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身につけている。					
授業のねらい	プログラミングは、環境科学/情報技術/メディア表現の各分野を学ぶ上で、非常に有効な手段となり得る。こういった目的に対してプログラミングという手段が有効であるかを把握し、目的を達成する手段としてのプログラミングを学ぶ。プログラミングにはさまざまな手法や言語があるが、その中でも幅広い分野で使用されている言語のPythonを例に、プログラミングの基本を学ぶ。					
到達目標	プログラミングとはどういうものかを理解し、基本的なプログラミングができるようになること。 プログラミングに必要な情報を自ら調べて自ら学べる、自走可能な状態になること。					
授業計画	第1講 ガイダンス・プログラミング言語Pythonでできる事・実習環境について 第2講 画面出力・型・変数・算術演算子 第3講 比較演算子・論理演算子 第4講 データ構造1(リスト) 第5講 データ構造2(辞書・タプル・集合) 第6講 制御フロー1(if文) 第7講 制御フロー2(for文) 第8講 制御フロー3(while文、continue、break) 第9講 関数 (関数定義・引数・戻り値・デフォルト引数) 第10講 クラス・オブジェクト1 (オブジェクト思考の概念について) 第11講 クラス・オブジェクト2 (クラス定義・クラス変数・コンストラクタ・スコープについて) 第12講 ライブラリの利用1(標準ライブラリ) 第13講 ライブラリの利用2(外部(非標準)ライブラリ) 第14講 ライブラリの利用3(ファイルの操作(テキスト, CSV, エクセル)) 第15講 まとめ～プログラミング技術を使った課題の解決方法について 定期試験					
テキスト・教材 (参考文献)	松浦健一郎 著, 司ゆき 著「Python[完全]入門」SBクリエイティブ(2021)					
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。(180分/週) 実習環境はWebブラウザを使用してプログラミング及びその実行を行う事ができる、Google社のColaboratoryというサービスを利用します。 各自、初回の講義の前にGoogleアカウントを作成の上、ログイン情報を忘れずにメモしておくこと。					
成績評価方法	「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)					
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、Googleドライブでのファイル共有での提出とする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は翌週の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。					
アクティブラーニング	プログラミング実習					
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。					
担当者から一言	「プログラム実習基礎」が履修済みである必要はありません。 実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。					

授業科目名	プログラミング実習応用 2			科目コード	382003	授業コード	413506
担当教員	足立 明信			科目ナンバリング	EIMT6003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身につけている。						
授業のねらい	「プログラミング実習応用 1」で学習したプログラミング技術の基礎をもとに、発展的な課題に取り組む。 プログラミング技術を環境科学/情報技術/メディア表現の各分野での活用する為の知識と、応用の足掛かりを身につける。						
到達目標	プログラミング技術を使って目的を実現する事ができる。 また、その為の手段を自ら見つける事ができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス・実習環境について IDEの使い方・デバッグ 第2講 プログラミング実習応用 1 復習/ローカル環境での演習1 第3講 プログラミング実習応用 1 復習/ローカル環境での演習2 第4講 ファイル操作(CSVファイル, テキストファイル, エクセルファイル) 第5講 Webサーバー構築(Flask) 第6講 NumPyの基本 第7講 NumPy応用例(画像処理) 第8講 モジュール・パッケージ・コマンドライン引数 第9講 OpenCVで画像処理 第10講 データ分析(Pandas, Matplotlib) 第11講 機械学習(scikit-learn) 第12講 オープンデータ分析 第13講 GUIプログラミング(tkinter) 第14講 その他ライブラリ 第15講 まとめ・自由課題 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	松浦健一郎 著, 司ゆき 著「Python[完全]入門」SBクリエイティブ(2021) ※プログラミング実習応用 1 で使用した参考書と同一						
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。(180分/週) 本講義では「プログラミング実習応用 1」とは違い、Webブラウザを使ったGoogle社のColaboratoryでの実習ではありません。ローカル(手元にあるコンピューター)のPython環境を用いて実習を行います。授業外でもPython環境をインストールされたコンピューターで自習が出来るよう、環境を整えることを推奨します。						
成績評価方法	「提出物」（70%）、「定期試験」（30%）						
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、MoodleもしくはTeamsでの提出とする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は次回の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。						
アクティブラーニング	プログラミング実習						
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。						
担当者から一言	「プログラミング実習応用 1」が履修済みである必要がありますが、「プログラム実習基礎」が履修済みである必要はありません。 実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。						

授業科目名	グラフィックツール2		科目コード	382102	授業コード	415602
担当教員	西尾 秀樹		科目ナンバリング	EIMP6002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。					
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。					
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説）・解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 3.色調整・サイズ調整 4.画像修正（削除ツール・生成塗りつぶし・スタンプツール など） 5.選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など） 7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8.ペイント・色変換 9.文字入力・加工／フィルター・その他ツール 10.デザインの実践1（バナーデザインなど） 11.デザインの実践2（illustratorとの連動） 12.デザインの実践3（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会					
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。					
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 「これ面白い画像だな」とか「どうやって作ったんだろう」という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。					
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%					
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。					
アクティブラーニング	実習を行います。					
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。					
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	映像技術		科目コード	382105	授業コード	414606
担当教員	柳瀬 元志		科目ナンバリング	EIMP6005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	映像制作を行う上で、基本的な技術の知識や操作、構造などを学びます。 また外部から、カメラや編集、ドローンの専門家を招いて実践的講義も行い、映像技術のスキル向上を目指します。					
到達目標	動画撮影用機材・編集の基本的な用語理解や特性を理解する					
授業計画	第1講 ガイダンス ～映像技術論のススメ方～ 第2講 技術用語の基礎知識 第3講 音声機材の種類と特性撮影機材の用語解説 第4講 音声機材の設定撮影用機材の歴史 第5講 音声機材を使った演習撮影の基本1（操作中心） 第6講 撮影機材の歴史 第7講 撮影機材の特性 第8講 最新の撮影機器（Inter bee） 第9講 ドローン操作演習 第10講 照明の基本 第11講 照明の応用 第12講 編集の基礎 第13講 編集実習1 第14講 編集実習2 第15講 まとめ～考察・これからの映像技術～ ※授業の進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて配布					
事前・事後学習	スタジオにあるカメラや音響、照明、編集機材など興味を持った機器に触れ、操作や効果などを自ら体験する時間を持つ。また舞台やライブイベント、様々なメディアで紹介されている映像などを観覧・視聴する。					
成績評価方法	授業への取り組む姿勢：30％ 課題への取り組み：30％ 定期試験もしくは試験に代わるレポート：40％ 必要に応じてフィードバックします。					
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、教学課の提出用レターケース、MOODLEのなかで、最も効率よく提出できる方法を、課題ごとに選択します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じて、採点、コメント評価などを行います。					
アクティブラーニング	カメラ実習や編集機操作、収録マイクの違いによる温室の比較体験、ドローン操縦体験など					
実務経験のある教員	技術分野（映像・音声・照明・編集）で活躍するプロから直接学ぶことができる場を提供します。					
担当者から一言	映像技術の授業において座学はもちろんですが、「技術」という分野では、実際に機材に触れ操作することが重要です。その中から得られる知識や情報が数多くあります。そうした体験やテーマを設けた実習、演習から学ぶ姿勢も大切にしていきたいと思います。					

授業科目名	ビデオツール		科目コード	382106	授業コード	414103
担当教員	瀬瀬 智英		科目ナンバリング	EIMP6006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	この授業は、Adobe Premiere Proを使用し、動画編集の基本技術を習得することを目指します。初心者や基礎から学び直したい方を対象に、編集ソフトの操作方法や映像編集の手法を学びながら、映像制作の基礎力を身につけます。					
到達目標	・ Adobe Premiere Proの基本的な操作を習得する。 ・ 動画編集に必要な基本的技術や手法を理解する。 ・ タイムラインの編集やエフェクトの活用など、編集ソフトの機能を適切に活用できる。					
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：初期設定・ワークスペースの理解・基本操作 第3回：素材の取り込みと整理 第4回：タイムラインと基本編集操作 第5回：映像の接続とトランジションの適用 第6回：簡易なアニメーション・キーフレーム操作 第7回：テロップ（字幕・タイトル）の挿入 第8回：頻度の高いエフェクトの利用① 第9回：頻度の高いエフェクトの利用② 第10回：オーディオ素材の取り扱いと編集基礎 第11回：オーディオ素材のエフェクト 第12回：色調整とカラーグレーディング 第13回：書き出しとレンダリング 第14回：全体のワークフロー理解と実践演習 第15回：実践演習内容のおさらい					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布します。					
事前・事後学習	予習：課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分） 復習：配布資料や講義ノートを確認するなど復習しておくこと（90分）					
成績評価方法	・ 講義内で実施する数回の習熟度テスト（70%） ・ 課題への取り組み姿勢（30%）					
授業内の課題・提出方法	授業内の課題提出は授業内で、提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。					
アクティブラーニング	実習					
実務経験のある教員	映像制作業 代表。現場にて必要とされる基礎的なスキルをわかりやすく指導します。					
担当者から一言	Premiere Proの基礎を楽しくしっかり学び、みなさんが自信を持って映像編集にチャレンジできる環境づくりをサポートします。共に成長し、充実したクリエイティブライフを始めましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	音響照明技術		科目コード	382107	授業コード	416102
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信		科目ナンバリング	EIMP6007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	音響と照明に関する基礎技術を「集中講義」で身につけます。機材の取り扱いから始まり、プロの制作現場に必要な技術を実践的に学びます。ライブコンサートにおける音響や照明技術を学びたい学にとっては必須の講義であり、後学期に開講の「音響照明概論」と併せて受講することをお勧めします。 ※ 本講義は「音響照明概論」の後に履修することが望ましい。					
到達目標	・音響と照明の機材を適切に取り扱うことができる。 ・音と光の演出に必要な技術を身につける。 ・仲間と協力しながら建設的な取り組みができる。					
授業計画	<1日目：7/19（土）1限～5限予定> 第1講 照明1「ガイダンス～機材の説明～光の種類」 第2講 照明2「カラーチューニング」 第3講 照明3「機材セッティングについて」 第4講 照明4「照明制御システムの理解」 第5講 照明5「照明プログラミング」 <2日目：7/20（日）1限～5限予定> 第6講 音響1「音響仕込み図の読み方」 第7講 音響2「出力系(スピーカー等)のセッティング」 第8講 音響3「入力系(マイク等)のセッティング」 第9講 音響4「ミキサーの設定」 第10講 音響5「スピーカーの音質調整」 <3日目：8/2（日）1限～5限予定> 第11講 調整1 第12講 調整2 第13講 リハーサル 第14講 本番 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	定期試験はありません。各回の講義・実習ごとに取り組み態度と成果で評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。					
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、実習					
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎技術をわかりやすく指導します。					
担当者から一言	・履修定員を設けるため、受講希望数が多い場合は抽選をいいます。 ・本講義は3日間の「集中講義」であるため、遅刻や欠席が、評価に大きく影響します。 ・怪我を防ぐために、室内のシューズと作業用の手袋を用意してください。					

授業科目名	電子音楽ツール		科目コード	382108	授業コード	412603
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	EIMP6008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。					
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。					
授業計画	・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習) 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータをつかった音楽制作とは 3.音楽の基礎 4.ループ音源を組み合わせる1※ 5.ループ音源を組み合わせる2※ 6.楽譜を音にする1※ 7.楽譜を音にする2※ 8.エフェクトとは 9.MixDownとは※ 10.生音の加工1※ 11.生音の加工2※ 12.効果音の世界1※ 13.効果音の世界2※ 14.音作品製作1※ 15.音作品制作2※ 定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。					
テキスト・教材（参考文献）	データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。 必要な資料は適時配布します。					
事前・事後学習	実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分) 音楽をしっかりと聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。分析しながら曲を聴きこむ(90分)					
成績評価方法	受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度) 作品提出30% レポート・定期試験40%					
授業内の課題・提出方法	学内サーバーの指定フォルダに提出 授業外では、Moodleやメールを利用。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講評が必要なものは、当日・翌週に講評。 質問などのフィードバックは適時行う。					
アクティブラーニング	Mac実習					
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有					
担当者から一言	音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。 共に音楽を学びましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	先進メディア技術		科目コード	382109	授業コード	412206
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	EIMP6011		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	コンピュータを使ったモノづくりが近年、当たり前になりつつあります。この講義では、3Dでの設計・造形や、コンピュータを使った音の合成について座学と自習で学びます。					
到達目標	Fusion360を使用して、3Dでの設計や造形を学び、自分のアイデアを形にする方法を習得する。また、コンピュータを使用し、自分で様々な音を合成する方法の習得を目指す。					
授業計画	1. ガイダンス 2. 立体造形1 3. 立体造形 2 4. 立体造形 3 5. 立体造形 4 6. 立体造形5/立体出力の概要 7. 立体出力1 8. 立体出力2 9. 立体出力3 10. 音の創作1 11. 音の創作2 12. 音の創作3 13. 音の創作4 14. 音の創作5 15. まとめ ※全ての講義にパソコン実習を含みます					
テキスト・教材（参考文献）	授業中に指示する。 ノートと筆記具、ファイルを必ず持ってくる事。					
事前・事後学習	授業ノートの整理(60分)配布資料やテキストでの予習(30分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)					
成績評価方法	授業中の課題提出(50%) 受講態度(50%)					
授業内の課題・提出方法	基本は学内提出フォルダを使用し、必要に応じてムードルやメールを指示。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週以降に講評できるものは講評する。 当日可能な場合は、全体での講評を行う。					
アクティブラーニング	パソコン実習					
実務経験のある教員	3Dプリンターと3D CADを用いた機械パーツ製作業務経験者 音楽作品提供業務経験者					
担当者から一言	自分の考えを、コンピュータを使って表現していく方法は、様々あります。この講義では、立体造形とDTMの中でも音の創作を学びます。新しい事に挑戦してみましょう。					

授業科目名	感性と創造			科目コード	382110	授業コード	415605
担当教員	黒田 淳哉			科目ナンバリング	EIMP6003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	文化が生まれるところには、はじめに「遊び」があります。その遊びが社会的に評価され、継続することにより文化として定着していきます。音楽の文化や、現在のSNS化も元を正せば、ちょっとした工夫や遊びの延線上に花開いたものです。本講義では、遊びの感覚でメディア作品制作を体験することから始め、最終的には作品制作を通して自分自身の感性と向き合い、個々の創造力を育むことを目的としています。						
到達目標	・メディアの作品制作に必要な各ステップを経験する。 ・仲間と適切なコミュニケーションを取りつつ、制作に積極的に取り組むことができる。 これらを到達目標としながら、自分の中にある隠れた一面や才能の発見を指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要～写真1 第2講 写真2 第3講 発表～講評（プレゼンテーション） 第4講 絵コンテ（企画・構成） 第5講 絵コンテ（グループワーク） 第6講 絵コンテ（グループワーク） 第7講 発表～ディスカッション 第8講 発表～ディスカッション 第9講 ストップモーションムービー（グループワーク） 第10講 ストップモーションムービー（グループワーク） 第11講 ストップモーションムービー（グループワーク） 第12講 発表～講評（プレゼンテーション） 第13講 発表～講評（プレゼンテーション） 第14講 作品鑑賞～分析 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	講義内でいくつかメディアの作品づくりに挑戦してもらいます。その作品の完成に向けた取り組みや、作品の完成度などから総合的に評価します。（100%）						
授業内の課題・提出方法	提出した作品は、講義内の発表時に講評を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義でいくつか作品をグループに分かれて制作します。それぞれの作品を完成させることが課題です。また、完成した作品は、講義内で発表してもらいます。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク						
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。						
担当者から一言	毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、特別な理由がない限り欠席しないでください。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	作品制作			科目コード	382111	授業コード	414105
担当教員	柳瀬 元志			科目ナンバリング	EIMP6004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	企画・立案、構成、演出、撮影、編集、MAやNA等、プロが映像作品を制作するステップを学んだり、静止画と文章を組み合わせストーリーを構成する授業などを行います。 特に制作した作品を発表する「プレゼンテーション」の機会を設け、「つくる」だけでなくメディアに必要な「伝える」ことの大切さ、言語化を体験して身につけることを狙いとします。						
到達目標	プロの方法論による作品制作の演習を通じて、モノづくりの楽しさ、むつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。						
授業計画	第1講：ガイダンス ～作品制作の進め方 クリエイティビティとは何か～ 第2講：同世代の制作した映像作品を鑑賞 第3講：フォトエッセイ～静止画と文章で構築する世界線～ 第4講：フォトエッセイプレゼンテーション 第5講：基本的な機材の扱い方とカメラサイズ・動き 第6講：作品の企画立案 第7講：撮影実習？ 第8講：撮影実習？ 第9講：撮影実習？ 第10講：撮影素材合同プレビュー 第12講：編集？ 第13講：編集② 第14講：編集③ 第15講：作品合同プレビュー＆まとめ ※作品の進捗状況により、内容の変更・入れ替えがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキスト及び参考文献や資料を配布します。						
事前・事後学習	制作授業以外にも、自ら継続的に創作活動を行う意識を持ってください。 日々様々なメディアを利用して、話題となっているイベントや展覧会、映画、CM、舞台、テレビ番組、小説、配信番組、ライブコンサートなど、スキルアップにつながる行動をどん欲に行う習慣を身につけてください。						
成績評価方法	授業・課題への取り組み姿勢 30％ 課題制作への意欲・参加度 30％ 作品内容・完成度 20％ 試験に代わる課題、もしくはレポート 20％						
授業内の課題・提出方法	教員に直接手渡し、もしくはメール、教学課提出BOX MOODLEなど、適切な方法を指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じて採点、返却します。						
アクティブラーニング	映像作品の制作に関する基礎基本的な静止画の撮影、文章表現、機材を用いての撮影体験やシミュレーションを行います。						
実務経験のある教員	中京テレビをはじめ、在名各テレビ局で番組制作の経験あり。現在も現役ディレクターとして企画から完パケまでを手掛けている。						
担当者から一言	使用する機材の台数の関係上、18名を上限として定員を設けます。 普段から多種多様な作品に触れ、美術鑑賞や観劇など自分自身の「見る目」を養ってください。グループで行う作業が数多くあります。「遅刻」「欠席」をしないよう責任と自覚をもって取り組んでください。						